平 成 27 年 度

# セ ミ ナ ー 要 項

自治医科大学　医学部

学籍番号(所属)

氏　　名

# 目　　次

１．セミナー実施要領…… i

セミナー・スケジュール黒板使用内規…… iii

２．教育目標…… iv

３．平成27年度セミナー一覧表…… v

４．平成27年度セミナー概要…… 1

# 1．セ ミ ナ ー 実 施 要 領

## （1）目　的

自治医科大学では6年間を通じて、教職員との全人格的接触による教育を重視している。セミナーの目的は比較的少人数の学生と教員とが人間的な触れ合いを通じて、お互いに学ぶことである。通常の授業では得られない知識、技能、態度の習得を通じて、学生が本学の教育目標を達成するのを援ける。また学生が教育目標の内容を越えて成長することを奨励する。

## （2）テーマ

学生のもつ多様な興味と、指導する教員の興味をともに満足するような幅広いものとする。

ａ．教員の専攻する分野の研究の第一線にふれるようなもの

ｂ．日々の臨床の第一線でおこる問題

ｃ．医学教育と関連した問題

ｄ．医学の本質に深くかかわり合うようなもの

ｅ．医師としての教養的テーマ

ｆ．一般教養的テーマ

ｇ．基礎医科学上のテーマ

ｈ．語学

ｉ．スポーツ

## （3）学習方法

テーマに則した可能な限り多様な方法とする。

ａ．論文の精読、抄読

ｂ．単行本の輪読、翻訳

ｃ．調査、報告

ｄ．実験、実習

ｅ．症例の検討

## （4）担当教員

教授、准教授、講師及び助教とする。

セミナーを担当しようとする教員は学事課の指定する日までに次年度の原稿を作成し提出する。

（５）履修方法

セミナー要項に従って、参加を希望するテーマの担当教員に直接申し出る。

（６）開講期間、回数、曜日、時間

時間表で空いている適当な曜日、時間帯をあてる。原則として10コマ（15時間）、20コマ（30時間）または30コマ（45時間）とし、各学期10コマとする。

（７）開講場所

教員室、カンファレンスルーム、図書室、実験室など学習方法や教員の指導に最も適した場所を使用する。

（８）単位の認定方法

セミナーは自由選択で、既定時間（15時間につき１単位）に達すれば、単位を認定する。但し、各学期１単位までとし、年間３単位を限度とする。

# セミナー・スケジュール黒板使用内規

（**範囲**）自治医科大学の各講座、各部門のセミナーなどで学生、研究生、その他に開放されているもの。

（**記入**）第１行左に講座（部門）名、右に連絡責任者内線番号を記入する。

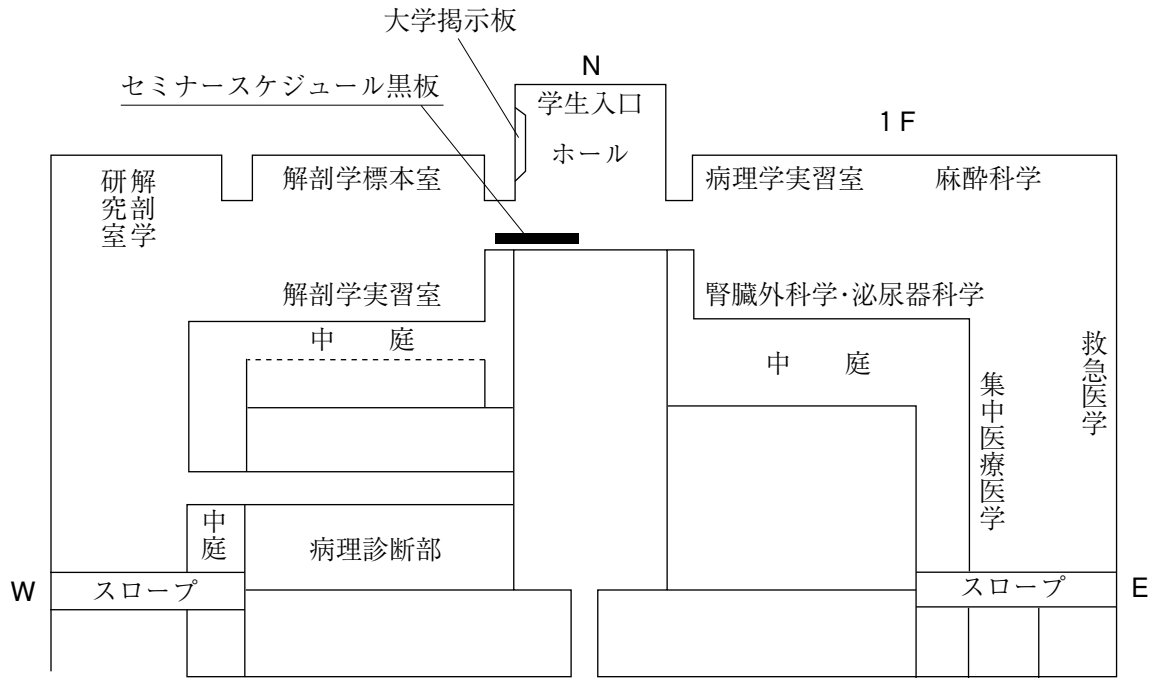
セミナーの詳細を書くスペースがないので、必要なら紙に書いたメモをマグネットでとめる。（Ｂ５版横書で区画内におさまるように）

セミナー開催日の１週間以上前に記入し終了後は直ちに消すことを原則とする。

（**責任**）各講座、各部門は「セミナー・スケジュール記入担当者」を定め、スケジュールを常に up-to-date なものにしておく責任をもつ。

（**配分**）年度始め、または必要なときに、教務委員会が再配分を行う。

（**設置場所**）



# 2．教　育　目　標

医育の第一目標は云うまでもなく、すべての学生が十分な医学知識と基本となる医療技術を習得することである。このほかに本学の教育目標は病者の気持ちを汲む能力の「情」の面と地域医療に挺身する気概の「意」の面において豊かな人間性を涵養することを唱っている。しかしさらに学生に創造的で科学的な能力を獲得させるために本学は、1993年発足の新カリキュラムの中で、少人数教育の方法により個々の教員から全人的な人間的影響を受け得るいくつかの形態の授業を実施することとした。その一つが本授業科目「セミナー」である。すなわち、医学研究あるいは個々の専門領域の研究を通して日夜知的生産に励んでいる教員に学生が直に接しその影響を直接受けることによって、学生の創造性を養い、科学的な思考能力を学生に獲得させることが本科目の教育目標である。言い換えるならば本授業科目は、卒業までに習得した医学の知識と技術に留まらず、生涯を通じて自ら学習を続けることによって新しい知識と技術を獲得し続ける能力、あるいは新しい知識を創造していく能力を少人数教育の方法によって学生に獲得させることを教育目標とする。

# 3．平成27年度　セミナー一覧

| セミナー番号 | テーマ | 対象学年 | 担当、責任者 | 所属 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 哲学を経験する―面構えを良くする哲学 | 全学年 | 稲垣諭 | 哲学 | 1 |
| 2 | ドイツ語で思想を読む | 全学年 | 〃 | 〃 | 2 |
| 3 | クライミングの身体哲学―行為能力の拡張 | 全学年 | 〃 | 〃 | 3 |
| 4 | 「地域」と「福祉」を考える | 全学年 | 青山泰子 | 社会学 | 4 |
| 5 | 文化人類学研究 | 全学年 | 渥美一弥 | 文化人類学 | 5 |
| 6 | 数理遺伝学 | 全学年 | 奥田浩 | 数学 | 6 |
| 7 | Cultural Exchange | 全学年 | R. Dilenschneider | 英語 | 7 |
| 8 | TOEFL 対策セミナー | 全学年 | 野尻英一 | 英語・哲学 | 8 |
| 9 | 哲学で学ぶ英語セミナー | 全学年 | 〃 | 〃 | 9 |
| 10 | 英語で学ぶ現代日本の文化と思想 | 全学年 | 〃 | 〃 | 10 |
| 11 | 教養としての映画セミナー | 全学年 | 〃 | 〃 | 11 |
| 12 | 哲学概説セミナー | 全学年 | 〃 | 〃 | 12 |
| 13 | ドイツ語文法初級セミナー | 全学年 | 〃 | 〃 | 13 |
| 14 | 中国語会話 | 全学年 | 阿部博幸 | 中国語 | 14 |
| 15 | 護身術 | 全学年 | 〃 | 〃 | 15 |
| 16 | 中国映画鑑賞 | 全学年 | 〃 | 〃 | 16 |
| 17 | 韓国映画鑑賞 | 全学年 | 〃 | 〃 | 17 |
| 18 | 日中交流史 | 全学年 | 〃 | 〃 | 18 |
| 19 | 日本語学 | 全学年 | 〃 | 〃 | 19 |
| 20 | 日本語表現法 | 全学年 | 〃 | 〃 | 20 |
| 21 | 身体を読む・身体で育む | 全学年 | 板井美浩 | 保健体育 | 21 |
| 22 | 耕すからだ | 全学年 | 〃 | 〃 | 22 |
| 23 | 系統発生学 | 全学年 | 菊地元史 | 自然史学 | 23 |
| 24 | 自然地理学からみた地域 | 全学年 | 〃 | 〃 | 24 |
| 25 | 今、知りたい心理学 | 全学年 | 高瀬堅吉 | 心理学 | 25 |

| セミナー番号 | テーマ | 対象学年 | 担当、責任者 | 所属 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 人体の立体構造 | 2～6 | 野田泰子 | 解剖学 | 26 |
| 27 | 機能組織細胞学 | 2～6 | 屋代隆 | 組織学 | 27 |
| 28 | ナイト法医病理学を読む会 | 4～5 | 坂本敦司 | 法医学 | 28 |
| 29 | ヘモグロビンおよび疾患関連タンパク質の生物物理学的研究 | 全学年 | 柴山修哉 | 生物物理学 | 29 |
| 30 | 脳とストレス | 全学年 | 尾仲達史 | 神経脳生理学 | 30 |
| 31 | 糖尿病／神経内分泌 | 全学年 | 矢田俊彦 | 統合生理学 | 31 |
| 32 | 脳と全身臓器の連関 | 全学年 | 〃 | 〃 | 32 |
| 33 | 遺伝子実験入門 | 1～5 | 柳澤健 | 構造生化学 | 33 |
| 34 | 分子生物学基礎実験 | 全学年 | 遠藤仁司 | 〃 | 34 |
| 35 | 症例から学ぶ生化学 | 全学年 | 〃 | 〃 | 35 |
| 36 | Scienceを楽しむ | 全学年 | 富永真一 | 病態生化学 | 36 |
| 37 | 免疫に関する最近の話題 | 全学年 | 柏田正樹 | 〃 | 37 |
| 38 | 国際保健医療 | 全学年 | 松岡裕之 | 医動物学 | 38 |
| 39 | マラリア原虫およびマラリア媒介蚊の分子生物学的研究 | 1～3 | 〃 | 〃 | 39 |
| 40 | 歴史の証言者としての百人一首 | 全学年 | 〃 | 〃 | 40 |
| 41 | ウイルス感染症 | 5～6 | 岡本宏明 | ウイルス学 | 41 |
| 42 | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicineを読む | 3～6 | 森澤雄司 | 臨床感染症学 | 42 |
| 43 | 腎と体液調節 | 1～3 | 谷口淳一 | 分子薬理学 | 43 |
| 44 | 医学生のための創薬科学入門 | 全学年 | 輿水崇鏡 | 〃 | 44 |
| 45 | 最新の薬物療法 | 4 | 藤村昭夫 | 臨床薬理学 | 45 |
| 46 | ドラマ「ドクターハウス」から医学と英語を学ぶ会 | 3～6 | 香山不二雄 | 環境予防医学 | 46 |
| 47 | 伝わる文章力・情報発信力入門 | 全学年 | 福島敬宜 | 病理学・病理診断部 | 47 |
| 48 | 循環器疾患の病態を考える | 全学年 | 苅尾七臣 | 循環器内科学 | 48 |
| 49 | 弁膜症の心臓超音波検査 | 3～6 | 市田勝 | 〃 | 49 |
| 50 | １枚の心電図から疾患を考える | 2～6 | 江口和男 | 〃 | 50 |

| セミナー番号 | テーマ | 対象学年 | 担当、責任者 | 所属 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 51 | 不整脈ケースカンファレンス | 4～6 | 今井　靖 | 循環器内科学 | 51 |
| 52 | 消化器内科臨床実技セミナー | 3～6 | 山本博徳 | 消化器内科学 | 52 |
| 53 | 電解質輸送セミナー | 3～6 | 武藤重明 | 腎臓内科学 | 53 |
| 54 | 地域で役立つ呼吸器病学 | 5～6 | 坂東政司 | 呼吸器内科学 | 54 |
| 55 | MGH神経CPC輪読 | 4～6 | 森田光哉 | 神経内科学 | 55 |
| 56 | 診断学再考 | 4～6 | 石橋　俊 | 内分泌代謝学 | 56 |
| 57 | iphone/iPadアプリ作成（入門編、初心者対象） | 3～5 | 岩本雅弘 | アレルギー膠原病学 | 57 |
| 58 | 遺伝子から美容まで | 3～6 | 大槻　マミ太郎 | 皮膚科学 | 58 |
| 59 | ドイツ語圏精神病理学の研究 | 4～6 | 阿部隆明 | 精神医学 | 59 |
| 60 | 小児精神医学 | 4～6 | 〃 | 〃 | 60 |
| 61 | 統合失調症患者の手記を読む | 全学年 | 小林聡幸 | 〃 | 61 |
| 62 | 小児科症例検討会 | 5～6 | 山形崇倫 | 小児科学 | 62 |
| 63 | 小児科リサーチカンファレンス | 5～6 | 〃 | 〃 | 63 |
| 64 | 膵癌を中心とした膵・胆道のCT診断 | 6 | 佐田尚宏 | 消化器・一般外科学 | 64 |
| 65 | 小児医療を熱く語ろう！　―小児外科の実際― | 4～6 | 小野　滋 | 小児外科学 | 65 |
| 66 | 移植医療について考える | 4～5 | 水田耕一 | 移植外科学 | 66 |
| 67 | 臨床論文の書き方（症例報告） | 4～6 | 三澤吉雄 | 心臓血管外科学 | 67 |
| 68 | 大動脈瘤の画像診断と治療 | 2～4 | 斎藤　力 | 〃 | 68 |
| 69 | 先天性心疾患を理解する | 全学年 | 河田政明 | とちぎ子ども医療センター・心臓血管外科 | 69 |
| 70 | 肺循環 | 4～5 | 遠藤俊輔 | 呼吸器外科学 | 70 |
| 71 | 脳神経外科を楽しむ | 全学年 | 渡辺英寿 | 脳神経外科学 | 71 |
| 72 | プライマリーケアに欠かせない運動器疾患を学ぶ | 4～6 | 安食孝士 | 整形外科学 | 72 |
| 73 | 医師の哲学 | 5～6 | 吉川一郎 | 小児整形外科学 | 73 |
| 74 | 妊娠高血圧症候群 | 全学年 | 大口昭英 | 産科婦人科学 | 74 |
| 75 | 腹膜播種、血管新生抑制を標的とした卵巣癌治療 | 4～5 | 嵯峨　泰 | 〃 | 75 |

| セミナー番号 | テーマ | 対象学年 | 担当、責任者 | 所属 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 腎臓不全の代替治療（腎不全を例に） | 3～5 | 八木澤　隆 | 腎臓外科学 | 76 |
| 77 | 耳鼻咽喉領域の症状からみた診断の進めかた | 4～6 | 西野　宏 | 耳鼻咽喉科学 | 77 |
| 78 | 臨床麻酔学およびペインクリニック | 3～6 | 竹内　護 | 麻酔科学 | 78 |
| 79 | 患者急変対応 | 全学年 | 佐藤正章 | 〃 | 79 |
| 80 | 集中治療の現状 | 4学年以上が望ましい | 布宮　伸 | 集中治療医学 | 80 |
| 81 | 超音波診断の理論と実践（エコーゼミ） | 5 | 紺野　啓 | 臨床検査医学 | 81 |
| 82 | 検査値から読み解く病態生理学 | 5 | 山田俊幸 | 〃 | 82 |
| 83 | Clinical Chemistry を読む | 4～6 | 小谷和彦 | 〃 | 83 |
| 84 | 救急集中治療 | 4～6 | 阿野正樹 | 救急医学 | 84 |
| 85 | 学会発表にチャレンジしよう | 4～6 | 米川　力 | 〃 | 85 |
| 86 | 内視鏡の実技と所見の読み方 | 全学年 | 武藤弘行 | 情報センター | 86 |
| 87 | ヒューマンエラー事象分析手法：Im SAFER | 全学年 | 河野龍太郎 | メディカルシミュレーションセンター | 87 |
| 88 | 医療シミュレーション教育の体験 | 全学年 | 鈴木義彦 | 〃 | 88 |
| 89 | 医療のためのマインドアップ基礎講座 | 全学年 | 浅田義和 | 〃 | 89 |
| 90 | 医療教育とインストラクショナル・デザイン | 全学年 | 〃 | 〃 | 90 |
| 91 | 医療者のための IT・ICT 入門 | 全学年 | 〃 | 〃 | 91 |
| 92 | 内科鑑別診断のポイント | 5～6 | 岡崎仁昭 | 医学教育センター | 92 |
| 93 | USMLE 対策コース | 4～6 | 〃 | 〃 | 93 |
| 94 | 公共哲学について考えてみよう | 全学年 | 石川鎮清 | 〃 | 94 |
| 95 | 身体所見から診断を考える | 4～6 | 〃 | 〃 | 95 |
| 96 | 楽しく医学知識を身につける | 全学年 | 金井信行 | 〃 | 96 |
| 97 | 緩和ケア入門「緩和ケアいろは歌」を読み解く | 全学年 | 丹波嘉一郎 | 緩和ケア部 | 97 |
| 98 | 緩和ケアのスタンダードについて考える | 4学年以上が望ましい | 〃 | 〃 | 98 |
| 99 | わが国における医療の現状分析と将来展望 | 全学年 | 梶井英治 | 地域医療学 | 99 |
| 100 | 家庭医療学の基本 | 全学年 | 三瀬順一 | 〃 | 100 |

| セミナー番号 | テーマ | 対象学年 | 担当、責任者 | 所属 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 地域医療と女性医師支援 | 全学年 | 牧野伸子 | 地域医療学・公衆衛生学 | 101 |
| 102 | 貧血を考える | 全学年 | 亀崎豊実 | 地域医療支援部門 | 102 |
| 103 | 臨床推論を学ぶ | 3～6 | 松村正巳 | 総合診療部門 | 103 |
| 104 | 病気になる人、ならない人 | 3～5 | 中村好一 | 公衆衛生学 | 104 |
| 105 | 疫学統計の概念を学び、実践する | 全学年 | 〃 | 〃 | 105 |
| 106 | バイオイメージング技術を用いた生体へのアプローチ：血栓・炎症 | 4～6 | 西村智 | 分子病態研究部 | 106 |
| 107 | 遺伝子治療 | 3～6 | 水上浩明 | 遺伝子治療研究部 | 107 |
| 108 | 「時事医学」入門 | 3～6 | 花園豊 | 再生医学研究部 | 108 |
| 109 | 炎症・免疫学入門 | 全学年 | 高橋将文 | 炎症・免疫研究部 | 109 |
| 110 | 発生生物学の最前線 | 全学年 | 川上潔 | 細胞生物研究部 | 110 |
| 111 | がんの生物学 | 全学年 | 〃 | 〃 | 111 |
| 112 | ヒトの進化史を理解しよう | 全学年 | 佐藤滋 | 〃 | 112 |
| 113 | 人類遺伝学セミナー | 全学年 | 岩本禎彦 | 人類遺伝学研究部 | 113 |
| 114 | 地域における消化器癌検診の現状と問題点 | 4～5 | 力山敏樹 | 総合医学第2 | 114 |
| 115 | 登山医学 | 3～6 | 草鹿元 | 〃 | 115 |

# セ ミ ナ ー 1

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 稲垣　諭 |
| 所属 | 哲　学 |
| テーマ | 哲学を経験する―面構えを良くする哲学 |
| 学習目標 | 哲学は、知識を身に着けること以上に、知識のあり方そのものの拡張、知ることそのものの拡張を、そして自分の経験の範囲を拡張することを重視する。そのためのやり方を、各自が発見することを目指す。 |
| 学習方法 | 古典的テクスト講読、現代社会における問題、心身にかかわる問題等、受講者の興味に応じて、そのつど資料、形式を検討する。ただし、基本的には、対話形式で行われる。 |
| テキスト | 適宜紹介する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 対話の貢献度、その他総合的に判断 |
| 連絡先・備考 | メールでの連絡は下記まで<br>稲垣　諭（哲学）　s-inagaki@jichi.ac.jp<br>内線（3356）でも可。 |

# セ ミ ナ ー 2

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 稲垣　諭 |
| 所属 | 哲　学 |
| テーマ | ドイツ語で思想を読む |
| 学習目標 | ドイツ語の構文を理解し、簡単なテクストであれば、辞書なしでドイツ語を読めるようにする。 |
| 学習方法 | 受講者の興味に応じて、テクストを選定し、各担当者が訳文を作成してくる。そのためドイツ語の基礎文法は習得している人が望ましい。初学者のための文法書等の紹介は行う。 |
| テキスト | 適宜紹介する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 課題の達成度により評価 |
| 連絡先・備考 | メールでの連絡は下記まで<br>稲垣　諭（哲学）　s-inagaki@jichi.ac.jp<br>内線（3356）でも可。 |

# セ ミ ナ ー 3

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 稲垣　諭 |
| 所属 | 哲　学 |
| テーマ | クライミングの身体哲学―行為能力の拡張 |
| 学習目標 | 運動する身体、跳躍する身体、無重力身体、緊張する身体、脱力する身体といった身体経験にかかわるさまざまなアスペクトを、クライミングを通して探求する。クライミングは、岩をつかみ、重心を持ち上げ、態勢を整え、筋の緊張を変化させるといった身体経験の拡張のまたとない機会である。そうした実践の中で本や論文を通しては分からない身体の不思議さに出会うことを目的とする。 |
| 学習方法 | 基本的に､体育館にあるクライミングウォールを活用し､場合によって、他のジムや岩場にも行く。身体の動かし方、クライミングのルール等はそのつど指導する。 |
| テキスト | 特にないが、クライミングに最低限必要な用具を用意する必要がある。 |
| 対象学年 | 特になし |
| 場所 | アトラス体育館トレーニングルーム |
| 曜日・時刻 | 相談に応じる |
| 期間・回数 | 通年・週一回が望ましいが、相談に応じる。 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席、および議論貢献度、クライミング課題達成度 |
| 連絡先・備考 | メールでの連絡は下記まで<br>稲垣　諭（哲学）<br>s-inagaki@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　4

| | |
|---|---|
| 担　当　教　員 | 青山　泰子 |
| 所　　属 | 社　会　学 |
| テ　　ー　　マ | 「地域」と「福祉」を考える |
| 学　習　目　標 | ①福祉・保健・医療各々の領域で、今起きている問題を問い、「地域」を意識する目を養う。<br>②「福祉」の視点で保健・医療・看護をとらえ直し、専門職・非専門職に何ができるかを考える。 |
| 学　習　方　法 | １．ドキュメンタリー（DVD、VTR など）の検討<br>２．事例の紹介<br>３．経験談の発表会 |
| テ　キ　ス　ト | 適宜資料を配付する。 |
| 対　象　学　年 | 全学年 |
| 場　　所 | 教育研究棟総合教育会議室　等 |
| 曜日・時刻 | 平日の昼休を中心に、参加者と相談の上、決定する。 |
| 期間・回数 | ５月～３月、15回（月１～２回） |
| 単　　位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備　　考 | 内線：3352（3106） |

# セ　ミ　ナ　ー　5

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 渥美　一弥 |
| 所属 | 文化人類学 |
| テーマ | 文化人類学研究 |
| 学習目標 | 世界の様々な文化における慣習、風俗、医療のありかた等を柔軟な思考で理解することを目指す。 |
| 学習方法 | 文化人類学関係の文献の精読とそのトピックについての討論。 |
| テキスト | 受講学生と話し合って決める。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 受講学生と相談する |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | セミナーにおける発表内容により評価。４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 参加希望者は文化人類学研究室（渥美）<br>メールアドレス　k-atsumi@jichi.ac.jp まで連絡して下さい。 |

# セ ミ ナ ー 6

| | |
|---|---|
| 担 当 教 員 | 奥田　浩 |
| 所　　属 | 数　　学 |
| テ　ー　マ | 数理遺伝学 |
| 学 習 目 標 | 1．遺伝学における数学的側面について理解する。<br>2．遺伝学の基礎的知識の整理を行う。<br>3．遺伝学と臨床医学とのかかわりについて理解する。 |
| 学 習 方 法 | |
| テ キ ス ト | プリントを配布する。 |
| 対 象 学 年 | 全学年 |
| 場　　所 | 未定 |
| 曜 日 ・ 時 刻 | 未定 |
| 期 間 ・ 回 数 | 相談のうえ決定する。 |
| 単　　位 | なし |
| 単位認定方法 | なし |
| 連 絡 先 ・<br>備　　考 | |

# セ ミ ナ ー 7

| | |
|---|---|
| 担当教員 | ロバート　ディレンシュナイダー<br>Robert Dilenschneider |
| 所属 | English Department |
| テーマ | Cultural Exchange |
| 学習目標 | Acquisition and confidence using English conversation skills. |
| 学習方法 | Discussion based on weekly themes. |
| テキスト | Handouts provided by the instructor. |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟 4 階　総合教育研究室 |
| 曜日・時刻 | 毎週月曜日　12：30－13：15を基本とするが、受講者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | ２～３学期各10回、計20回 |
| 単位 | ２～３学期各１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 原則として10名以内<br>人数が多い場合には学期毎に分散してもらうこともある。<br>Students must be punctual every week to participate in this class.<br>rdilenschneiders@jichi.ac.jp |

# セ ミ ナ ー 8

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野尻　英一 |
| 所属 | 英語・哲学 |
| テーマ | TOEFL 対策セミナー |
| 学習目標 | 自治医大において受験が義務化された TOEFL ITP テストの形式や内容に親しみ、得点アップを目指す。 |
| 学習方法 | TOEFL ITP テストの形式や傾向の説明、問題演習を行う。<br>ITP テストの概要について解説した後、模試にチャレンジする（2時間ほど)。<br>その後、問題解説を行う。 |
| テキスト | 田地野彰編『TOEFL ITP テスト公式テスト問題＆学習ガイド』研究社、2013年 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 小教室 |
| 期間・回数 | 10/6(火)と10/8(木)の２回。いずれも４・５・６限（13:40～17:40）通しで行う。２回とも内容は同じ。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | １回の出席で0.5単位を与える。 |
| 連絡先・備考 | ※セミナーへの参加希望者は、野尻まで連絡すること。<br>（nojiri@jichi.ac.jp)。 |

# セ　ミ　ナ　ー　9

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野尻　英一 |
| 所属 | 英語・哲学 |
| テーマ | 哲学で学ぶ英語セミナー |
| 学習目標 | やさしい英語原書に親しむことを通じて、受験英語の世界を脱し、英語で読み、英語で考えることを学ぶ。 |
| 学習方法 | テキスト（*The Phijosopher at the End of the Universe*）を読んでいく。この本は、ＳＦ映画（マトリックスやブレードランナー、ターミネーターなど）を題材にしながら、哲学の世界に親しんでいくという構成で、世界的な人気を博している書物。（テキストは参加者のレベル、希望に合わせて変更する可能性もある。） |
| テキスト | Mark Rowlands, *The Phijosopher at the End of the Universe*<br>New Ed., 2005. |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 原則月曜日の放課後。<br>ただし参加者の都合にあわせる。 |
| 期間・回数 | 通年。年10回を予定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ８割の出席で１単位が付く。 |
| 連絡先・備考 | ※セミナーへの参加希望者は、野尻まで連絡すること。<br>（nojiri@jichi.ac.jp）。 |

# セ　ミ　ナ　ー　10

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野尻　英一 |
| 所属 | 英語・哲学 |
| テーマ | 英語で学ぶ現代日本の文化と思想<br>（Contemporary Japanese Culture and Thought in English） |
| 学習目標 | 日本発の小説、マンガ、アニメなどの文化を、欧米のファンや研究家たちがどう見ているのかを知り、異文化間の認識の違いや交流のあり方を考えていく。またこれら現代文化を論じた日本の思想家のテキストを読み、現代思想の考え方を学ぶ。 |
| 学習方法 | テキスト（下記からピックアップ）を読んでいく。セミナーでは、必要に応じて、テキストで取り上げられている小説、映画などの鑑賞も行いたい。（なおテキストは参加者のレベル、希望に合わせて変更する可能性もある。） |
| テキスト | Susan J. Napier, *Anime from Akira to Princess Mononoke: Experiencing Contemporary Japanese Animation,* Palgrave Macmillan, 2005.<br><br>Patric W. Galbraith, *The Otaku Encyclopedia,* Kodansha, 2009.<br><br>Hiroki Azuma, *Otaku: Japan's Database Animals,* University of Minnesota Press, 2009.<br><br>Saito Tamaki, *Beautiful Fighting Girl,* University of Minnesota Press, 2011. |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 原則月曜日の昼休み。ただし参加者の都合にあわせる。 |
| 期間・回数 | 通年。年10回を予定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ８割の出席で１単位が付く。 |
| 連絡先・備考 | ※セミナーへの参加希望者は、野尻まで連絡すること。<br>（nojiri@jichi.ac.jp）。 |

# セ　ミ　ナ　ー　11

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野尻　英一 |
| 所属 | 英語・哲学 |
| テーマ | 教養としての映画セミナー |
| 学習目標 | 二〇世紀の発明品である「映画」は、国、文化、世代、性別を越えて広く共有される教養の源泉となった。このセミナーでは、古今東西の「名作」と言われる映画や人気のある映像作品を鑑賞することで、医学部の学生に社会や人間についての広い教養を身に付けてもらうことを目標とする。 |
| 学習方法 | ①毎週１回、昼休みに短めの映像（映画の予告編、ドラマやアニメシリーズの一部、CMなど）を鑑賞し、意見を交換する「昼休みミーティング」を行う。②そのほかに月１回程度、「映画上映会」を開催し、２時間程度の映画を鑑賞する。観賞後、講師が作品、文化・歴史的背景、登場した人物や思想などについて簡単な解説をおこない、意見交換をおこなう。 |
| テキスト | 鑑賞作品は、各種映画賞受賞作品などを中心に、講師からの推薦、受講学生からの希望などによって選出する。アニメやCMフィルム、プロモーションビデオなどの鑑賞も考えている。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 「昼休みミーティング」は原則毎週金曜日の昼休み。「映画上映会」は放課後の予定。ただしいずれも参加者の都合に合わせる。 |
| 期間・回数 | 通年。 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席は随時可。10回の出席で１単位が付くシステム。また映画上映会への参加は、１回２コマ分の出席となる。 |
| 連絡先・備考 | ※セミナーへの参加希望者は、野尻まで連絡すること。（nojiri@jichi.ac.jp）。 |

# セ　ミ　ナ　ー　12

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野尻　英一 |
| 所属 | 英語・哲学 |
| テーマ | 哲学概説セミナー |
| 学習目標 | 西欧哲学の基本テーマ（人間、客観、実体、主観、時間、空間、存在、自然、無）などについて、基本的な理解を養う。 |
| 学習方法 | テキストを少しずつ読んでいき、講師が解説する。『哲学概説』は古い本であるが、平易な文体でわかりやすく哲学の神髄を解く名著。 |
| テキスト | 樫山欽四郎『哲学概説』　創文社、1964年。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 原則月曜日の放課後。ただし参加者の都合に合わせる。 |
| 期間・回数 | 通年。年10コマを予定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ８割の出席で１単位が付く。 |
| 連絡先・備考 | ※セミナーへの参加希望者は、野尻まで連絡すること。（nojiri@jichi.ac.jp）。 |

# セ　ミ　ナ　ー　13

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野尻　英一 |
| 所属 | 英語・哲学 |
| テーマ | ドイツ語文法初級セミナー |
| 学習目標 | ドイツ語の初級文法を一通りマスターする。 |
| 学習方法 | テキストに沿って文法の解説と練習を行なう。参加者にはできる範囲での宿題をこなしてもらう。 |
| テキスト | 在間進『ドイツ語のスタートライン』　三修社（1600円）。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 原則水曜日の放課後。ただし参加者の都合に合わせる。 |
| 期間・回数 | ３学期・20回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席や宿題への取り組みなどによって認定する。 |
| 連絡先・備考 | ※セミナーへの参加希望者は、野尻まで連絡すること。（nojiri@jichi.ac.jp）。 |

# セ ミ ナ ー 14

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸 |
| 所属 | 中　国　語 |
| テーマ | 中国語会話 |
| 学習目標 | 中国語の基礎を確認しながら、簡単な表現を使った会話ができるようになる。 |
| 学習方法 | 常用表現の入れ換え練習をしたり、自由な会話を楽しむ。 |
| テキスト | 『語感をみがく入門中国語』阿部博幸・王衛清（朝日出版社） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ　ミ　ナ　ー　15

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸・柳澤　健 |
| 所属 | 中国語・構造生化学 |
| テーマ | 護　身　術 |
| 学習目標 | 合気道などの稽古を通して護身の考え方の基礎を学ぶ。 |
| 学習方法 | 突きの捌き方・手の解き方・受け身・体捌きを反復しながら技を習得する。 |
| テキスト | 特に使用しない。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | ４～６月及び９月　計15回、10～１月　計15回 |
| 単位 | 各１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ ミ ナ ー 16

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸 |
| 所属 | 中　国　語 |
| テーマ | 中国映画鑑賞 |
| 学習目標 | 中国映画を通して、中国の文化や中国人の考え方を理解する。 |
| 学習方法 | DVD や VCD で中国映画を鑑賞し、映画で描かれている中国の文化・風俗習慣などを欧米や日本のものと比較しながら話し合う。 |
| テキスト | 使用しない。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ ミ ナ ー 17

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸 |
| 所属 | 中　国　語 |
| テーマ | 韓国映画鑑賞 |
| 学習目標 | 韓国映画を通して、韓国の文化や韓国人の考え方を理解する。 |
| 学習方法 | DVD などで韓国映画を鑑賞し、映画で描かれている韓国の文化・風俗習慣などを欧米や日本のものと比較しながら話し合う。 |
| テキスト | 使用しない。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ ミ ナ ー 18

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸 |
| 所属 | 中　国　語 |
| テーマ | 日中交流史 |
| 学習目標 | 日本と中国の交流の歴史を学びながら、現在の日中両国に対する理解を深め、日本の今後のあり方を考える。 |
| 学習方法 | テーマを決めて資料を読み、歴史確認について話し合う。 |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ ミ ナ ー 19

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸 |
| 所属 | 中　国　語 |
| テーマ | 日本語学 |
| 学習目標 | 現代日本語を客観的にとらえなおし、日本語の体系を理解する。 |
| 学習方法 | テーマを決めて資料を読み、日本語についてあらゆる角度から話し合う。 |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ　ミ　ナ　ー　20

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　博幸 |
| 所属 | 中　国　語 |
| テーマ | 日本語表現法 |
| 学習目標 | 日本語の正書法を習得し、実用的な文章が書けるようになる。 |
| 学習方法 | プリントを使って基礎の確認をし、テーマを決めて文章を作成する。 |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ　ミ　ナ　ー　21

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 板井　美浩 |
| 所属 | 保健体育 |
| テーマ | 身体を読む・身体で育む |
| 学習目標 | 身体・運動に関する書籍や文献の講読および身体運動の実践やパフォーマンス鑑賞を通じて、身体にたいする認識を深める。 |
| 学習方法 | 書籍あるいは文献の講読<br>舞踏などパフォーマンス鑑賞および実践<br>重量物などを用いた身体のさばき方実践 |
| テキスト | オイゲン・ヘリゲル「日本の弓術」岩波文庫<br>野口三千三「原初生命体としての人間」岩波書店<br>高岡英夫「鍛錬の理論・東洋的修行法と科学的トレーニング」恵雅堂出版<br>DVD「大野一雄・美と力」<br>DVD「裸の夏」　など |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育研究室、トレーニングルーム等 |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決定する |
| 期間・回数 | 通年30回 |
| 単位 | １～２単位 |
| 単位認定方法 | 出席状況による |
| 連絡先・備考 | itai-y@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　22

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 板井　美浩 |
| 所属 | 保健体育 |
| テーマ | 耕すからだ |
| 学習目標 | 近代スポーツは、国境を超え誰もが参加でき公平な条件で競技ができるよう、ルールの合理化や施設・用具の整備が図られてきた。また競技が専門化・細分化するほどに、求められる体力要素や身体操法は特化し、それに伴う練習やトレーニング法および用具は、多くの人為的意図を盛り込んで発展させられてきた。<br>こうした、言わば「人工養成的」に整えられた身体運動を、現代に生きる我々は特段の違和感を感じることなく日頃の活動の「場」に取り入れている。<br>一方で、古来より暮らしに密着してきた動作（掘る・耕す・鋸を引く・薪を割るなど）は自ら体得するものであり、また伝承される中で「自然発生的」に工夫が加えられてきたが、現代では敢えて行わなければ接する機会の少ない身体運動になっている。<br>このような「自然発生的」な身体操法と「人工養成的」トレーニングとの間には、実は隔たりがあるようであって身体捌きの観点からすると、どちらも本質には共通する点が多いように思われる。<br>本セミナーは、現代の生活様式では体験することの少ない身体運動を実施することで、太古の昔から人に備わっている原初的な身体能力に気づき、心身を耕そうとするものである。 |
| 学習方法 | 草をむしる。砂を掘る。土を掘る・耕す。水を運ぶ・撒く。土を踏む。天地（あめつち）を感じる。 |
| テキスト | 相談のうえ決定する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 陸上競技場（跳躍種目の砂場）、大学構内（学生寮東側の武道館跡地）など。 |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決定する |
| 期間・回数 | 通年、週１回程度。 |
| 単位 | １～３単位 |
| 単位認定方法 | 出席状況による |
| 連絡先・備考 | itai-y@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　23

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 菊地　元史 |
| 所属 | 自然史学 |
| テーマ | 系統発生学 |
| 学習目標 | 医学研究は、その殆どすべてがヒトあるいは、マウスなど哺乳類の実験動物を対象としている。しかし、我々の身体は、原始の生命に始まり、40億年とされる長い歴史をかけて徐々に現在の形にたどり着いたのである。この過程（系統発生）に目を向けることによって、ヒトについての理解もまた驚くほど深まるだろう。例えば、どうして呼吸器と消化器は、咽頭で交差する構造になっているのだろうか。また、どうして聴覚と平衡覚を内耳が司るのだろうか。本セミナーでは、これらの疑問に答える比較動物学および系統発生学という概念を身につけることを目標とする。 |
| 学習方法 | 討論会、抄読会、実験を適宜組み合わせる。 |
| テキスト | 随時指定する。 |
| 対象学年 | 学部生全般 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 履修希望者と相談のうえ決める。 |
| 期間・回数 | 年15回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席回数 |
| 連絡先・備考 | 内線3357、電子メール　kikuchim@jichi.ac.jp |

# セ ミ ナ ー 24

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 菊地　元史 |
| 所属 | 自然史学 |
| テーマ | 自然地理学からみた地域 |
| 学習目標 | ある種の生物がある場所に生息し、別のある場所に生息しないのはなぜだろうか。この疑問に答えるのが自然地理学である。動物、植物、菌類などからなる生物の世界は、空気、水、土などの無機的な環境（気圏、水圏、岩圏）と様々につながり合って形作られている。このセミナーで、自然をみる「ものさし」を身に付け、地域ごとの自然環境、すなわち人の活動の舞台を評価する視点を養って欲しい。 |
| 学習方法 | 討論、抄読、実験を適宜組み合わせる。受講者の出身地への理解を深める内容としたい。 |
| テキスト | 随時指定する。 |
| 対象学年 | 学部生全般 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 履修希望者と相談の上。 |
| 期間・回数 | 随時・15回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席回数 |
| 連絡先・備考 | 内線3357、電子メール　kikuchim@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　25

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 高瀬　堅吉 |
| 所属 | 心理学 |
| テーマ | 今、知りたい心理学 |
| 学習目標 | 心理学は行動と心的過程についての科学的学問です。その範囲は広く、脳と心の関係性、性格、赤ちゃんは何を考えているのか、なぜ太っても食事をやめられないのかなど、扱うトピックは多岐にわたります。このセミナーでは「大学生の心」に焦点をあてます。例えば、恋愛関係、家族関係、心身の健康、学業、進路などは学生相談に多く寄せられる項目であることがわかっています。大学生が関心を持つ心の問題について、最新の心理学の科学的データをもとに話し合い、「今、知りたい心理学」の知識を深めることを目的とします。 |
| 学習方法 | テキスト、論文を用いての議論 |
| テキスト | 適宜資料を配布します。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 火～金の昼休み（参加者の構成により変更があります）。 |
| 期間・回数 | ９月～12月、15回（３～４回／月）。<br>（参加者の構成により変更があります）。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 少人数による議論を重視したいので希望が多い場合は分散して開講するなどの方法を採ります。<br>参加希望者は高瀬まで連絡をください。<br>（kenkichi.takase@jichi.ac.jp） |

# セ　ミ　ナ　ー　26

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 野田　泰子 |
| 所属 | 解剖学部門 |
| テーマ | 人体の立体構造 |
| 学習目標 | マクロ解剖学、神経解剖学ですでに学習した人体の立体構造についてあらためて復習し、画像診断にも活かせるような確実なイメージ像を構築する。 |
| 学習方法 | 解剖学書、アトラスを用いた系統的な復習および実習。 |
| テキスト | 参考図書：<br>『臨床のための解剖学』<br>『スネル臨床解剖学』 |
| 対象学年 | ２～６学年 |
| 場所 | 解剖学部門セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 解剖学部門・野田（ynoda@jichi.ac.jp）<br>数名程度 |

# セ　ミ　ナ　ー　27

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 屋代　隆、藤原　研、塚田　岳大、東　森生 |
| 所属 | 組織学部門 |
| テーマ | 機能組織細胞学 |
| 学習目標 | 下垂体前葉細胞の機能は、視床下部や末梢器官からの内分泌シグナルによって支配されています。しかし、同時に前葉組織内にもコミュニケーションや細胞外マトリックスが細胞機能を調節するしくみが存在して、はじめて下垂体前葉は、全体としての調和のとれた活動をすることができるのです。これらの局所的な細胞機能調節の機能を明らかにしようとする基礎研究は、再生移植科学の分野でも、幹細胞からの機能的な臓器（組織）発生の観点から注目を集めようとしています。<br>これらの課題に、光学顕微鏡および電子顕微鏡レベルでの免疫組織化学や in situ hybridization、さらに、トランスジェニック動物やタンパク質の強制発現／発現抑制を行なった細胞・器官の生体イメージング等の形態学的技術によってアプローチしています。それらを理解することを学習目標とします。 |
| 学習方法 | 討論会、抄読会、実験を組み合わせる。 |
| テキスト | 適宜、指定する。 |
| 対象学年 | ２～６学年 |
| 場所 | 解剖学講座組織学部門セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 履修希望者と相談の上決める。 |
| 期間・回数 | 年10回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上出席 |
| 連絡先・備考 | 0285－58－7314<br>内線（3112） |

# セ　ミ　ナ　ー　28

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 坂本　敦司 |
| 所属 | 法医学部門 |
| テーマ | ナイト法医病理学を読む会 |
| 学習目標 | 法医学の講義は地域での用務上必要な医事法制や遭遇するであろう検死業務への対応を強く意識したものとなっているが、本セミナーでは一歩進めて法医解剖・法医病理学についてのより深い知識・考え方の習得を目指す。 |
| 学習方法 | 成書の輪読を中心として、適宜、討論を行う。 |
| テキスト | Knight's Forensic Pathology（3rd ed）<br>Forensic Pathology （principles and pracice） |
| 対象学年 | ４・５学年 |
| 場所 | 解剖学講座　法医学部門 |
| 曜日・時刻 | 火曜（17：00～18：30）を予定しているが相談の上、変更可。 |
| 期間・回数 | １～２学期・10回程度（15時間相当程度） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 3107（法医学部門受付）<br>３名程度 |

# セ　ミ　ナ　ー　29

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 柴山　修哉、開　俊樹 |
| 所属 | 生物物理学部門 |
| テーマ | ヘモグロビンおよび疾患関連タンパク質の生物物理学的研究 |
| 学習目標 | 生物の機能を担うタンパク質分子の生物物理学的な研究方法の基礎を習得する。これを通して論理的思考力と問題解決能力を養う。 |
| 学習方法 | 生物物理学的な手法を用いてヘモグロビンおよび疾患関連タンパク質の構造と機能の関係を研究する。具体的な研究計画は、教員と相談しながら決める。また、必要に応じて英文論文の抄読を行う。 |
| テキスト | 特に必要なし。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育研究棟５階　生物物理学部門 |
| 曜日・時刻 | 受講者と相談の上決める。 |
| 期間・回数 | 15回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 実験技術の修得、実験結果に基づくレポートをみて認定する。 |
| 連絡先・備考 | 内線3369 |

# セ　ミ　ナ　ー　30

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 尾仲　達史、高柳　友紀、吉田　匡秀 |
| 所属 | 神経脳生理学部門 |
| テーマ | 脳とストレス |
| 学習目標 | ストレスは、様々な疾患の発症因子あるいは増悪因子である。このストレス反応を制御しているのが脳である。この領域の最近の成果を学習する。 |
| 学習方法 | 単行本あるいは総説の輪読。<br>実験の見学・参加。 |
| テキスト | 相談して決める。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 神経脳生理学部門　カンファレンスルーム（教育・研究棟５Ｆ） |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線3124<br>直通0285－58－7318 |

# セ ミ ナ ー 31

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 矢田　俊彦、中田　正範、出崎　克也、岩﨑　有作、須山　成朝 |
| 所属 | 統合生理学部門 |
| テーマ | 糖尿病／神経内分泌 |
| 学習目標 | 英文論文の読み方・紹介方法を学習<br>インスリン分泌と作用、糖代謝調節、摂食調節機構の理解<br>糖尿病、肥満、高血圧の成因の理解<br>神経内分泌系の機構の理解 |
| 学習方法 | 論文抄読 |
| テキスト | 国際雑誌より論文をコピーし配付 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 中教室 |
| 曜日・時刻 | 18：00～19：30、第３月曜日、参加日相談可 |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月、年12回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | １／２以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線3129 |

# セ　ミ　ナ　ー　32

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 矢田　俊彦、中田　正範、出崎　克也、岩﨑　有作、須山　成朝 |
| 所属 | 統合生理学部門 |
| テーマ | 脳と全身臓器の連関 |
| 学習目標 | 全身臓器⇔脳の相互作用は生体恒常性の維持とその破綻（疾患）において極めて重要である。この新しい“臓器連関学”について個体から細胞・分子レベルで学習し自由な発想を出し合う。 |
| 学習方法 | 論文抄読 |
| テキスト | 相談して決める。<br>国際雑誌より論文をコピーして配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 統合生理学部門カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 18：00～19：30、月２回、参加日相談可 |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月、年24回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | １／２以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線3129 |

# セ　ミ　ナ　ー　33

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　健、松儀　実広、太田　聡、多胡　憲治 |
| 所属 | 構造生化学部門 |
| テーマ | 遺伝子実験入門 |
| 学習目標 | 基本的なモレキュラークローニングの手法を学び、セントラルドグマを実際に体感する。 |
| 学習方法 | 実際に遺伝子を PCR により増幅し、哺乳動物細胞を用いて発現させる。発現したタンパク質はウェスタンブロッティングで検出する。 |
| テキスト | 特になし |
| 対象学年 | １～５学年 |
| 場所 | 構造生化学部門　実験室　（K6-115） |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定する。 |
| 期間・回数 | 各学期、15回ほど。 |
| 単位 | 各学期、１単位、１年３単位。 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 生化学講座　構造生化学部門<br>柳澤　内線3366 |

# セ ミ ナ ー 34

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 遠藤　仁司、冨永　薫、坂下　英司、笠嶋　克巳、黒岩　憲二 |
| 所属 | 機能生化学部門 |
| テーマ | 分子生物学基礎実験 |
| 学習目標 | 様々な遺伝子及び遺伝子産物の研究に応用可能な生化学的・分子生物学的解析法を学ぶ。<br>(1)基礎的実験手技、(2)論理的思考力、(3)問題解決能力等の修得をめざす。 |
| 学習方法 | 当講座のテーマである転写後レベルの遺伝子発現制御の研究やミトコンドリアタンパク質に関する研究を行う。基本的には教員と相談しながら各個人に適した実験計画を組む。教科書では学べない生化学研究における基本的な技術、思考過程を楽しみながら体感する。 |
| テキスト | こちらで用意する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学講座実験室 |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 各学期15回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 数名程度<br>内線3154 |

# セ　ミ　ナ　ー　35

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 遠藤　仁司 |
| 所属 | 機能生化学部門 |
| テーマ | 症例から学ぶ生化学 |
| 学習目標 | 臨床症例をもとに、その生化学的事象を考える力を養う。 |
| 学習方法 | 「症例から学ぶ生化学（東京化学同人)」、「症例ファイル・生化学(丸善出版)」等から引用した症例を用いて、生化学的事象を順番に討議・解説する。 |
| テキスト | プリントを配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定 |
| 期間・回数 | ４月～９月　15回　　10月～３月　15回 |
| 単位 | 各期１単位、１年２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 数名程度<br>内線3154 |

# セ ミ ナ ー 36

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 富永　眞一 |
| 所属 | 病態生化学部門 |
| テーマ | Science を楽しむ |
| 学習目標 | 生命科学の面白さを味わう。同時に最新の論文の大意をくみとる力を養う。 |
| 学習方法 | Science 最新号について、生命科学分野の論文を抄読する。 |
| テキスト | Science（on line journal）コピーをこちらで用意する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 病態生化学セミナー室（教育・研究棟 6 階南） |
| 曜日・時刻 | 曜日・時刻は相談の上決定する |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期 1 単位、1 年 3 単位 |
| 単位認定方法 | 4 ／ 5 以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 4 名以下<br>連絡先　富永眞一（3142） |

# セ　ミ　ナ　ー　37

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 柏田　正樹 |
| 所属 | 病態生化学部門 |
| テーマ | 免疫に関する最近の話題 |
| 学習目標 | 基礎医学科目である免疫学の知識を深めるとともに、病態理解に役立つ最新の研究論文の概略を理解できる。 |
| 学習方法 | 関連分野の最新の論文を抄読会形式で議論する。 |
| テキスト | 資料および論文は、PDF をこちらで用意する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学講座セミナー室（教育・研究棟 6 階） |
| 曜日・時刻 | 曜日、時間は相談の上決定する |
| 期間・回数 | 年間20回程度 |
| 単位 | １年２単位 |
| 単位認定方法 | 出席と理解度から判断 |
| 連絡先・備考 | 特になし<br>内線3143<br>E-mail　masaki-k@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　38

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 松岡　裕之 |
| 所属 | 医動物学部門 |
| テーマ | 国際保健医療 |
| 学習目標 | 現在の国際保健医療にはどの様な課題・問題があるか、どの様な解決・対応ができるかについて理解し考える。 |
| 学習方法 | 教科書、単行本、学術論文などを輪読、討論する。<br>前年度はＢＳＬで経験した症例について英語で症例呈示を行ない、英語で質疑応答を行なった。 |
| テキスト | 文献コピーを用意する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 医動物学教室セミナー室（ＥＵ２－103） |
| 曜日・時刻 | 金曜日　17：00～18：30 |
| 期間・回数 | １学期に15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 連絡先・備考 | ２～８名位<br>medzool@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　39

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 松岡　裕之 |
| 所属 | 医動物学部門 |
| テーマ | マラリア原虫およびマラリア媒介蚊の分子生物学的研究 |
| 学習目標 | 分子生物学的手法を用いてマラリア原虫とマラリア媒介蚊の寄生関係を研究する。このことを通じて科学的論理性を習得する。 |
| 学習方法 | 放課後および週末を利用して研究室において実験を行なう。図書館・コンピューターネットワークを利用して文献の検索・抄読をする。研究成果を論文報告する。 |
| テキスト | 特に購入する必要はない。<br>教室にある図書を利用してもらう。 |
| 対象学年 | １～３学年　１～２名 |
| 場所 | 医動物学教室（ＥＵ２－103） |
| 曜日・時刻 | 特に指定はない。相談のうえ決める。 |
| 期間・回数 | １年間。300時間位。 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 実験技術の修得、文献の読破量、実験結果にもとづくレポートの作成をみて認定する。 |
| 連絡先・備考 | medzool@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　40

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 松岡　裕之 |
| 所属 | 医動物学部門 |
| テーマ | 歴史の証言者としての百人一首 |
| 学習目標 | 藤原定家によって選ばれた百人一首は天智天皇から順徳天皇までおよそ600年の間に詠まれた和歌がその詠まれた順に並んでいる。本セミナーでは各歌について作者の人柄、詠まれた時代背景を考えながら鑑賞してゆく。 |
| 学習方法 | 毎回数首ずつ。歌の解釈にとどまらず、詠者はどんな人だったのか、他にどんな歌を詠んでいるか、その時代背景はどんなであったかなどを学んでゆく。 |
| テキスト | 高校時代に使った「百人一首」のテキストを捜し出して持参すること。<br>日本史の教科書や資料もある人は持って来ること。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 医動物学教室セミナー室（ＥＵ２－103） |
| 曜日・時刻 | 毎週金曜日　12：40～13：30 |
| 期間・回数 | １学期から２学期にかけて計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 連絡先・備考 | medzool@jichi.ac.jp |

# セ ミ ナ ー 41

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岡本　宏明 |
| 所属 | ウイルス学部門 |
| テーマ | ウイルス感染症 |
| 学習目標 | 日本を含むアジアに多いウイルス感染症、特にウイルス肝炎や新興感染症をテーマに取り上げ、医学研究の方法論について学ぶ。 |
| 学習方法 | レクチャー、実験および関係する学術論文の抄読と評価 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | ウイルス学教室 |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ、スケジュールを決定する。 |
| 期間・回数 | 10回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認める。 |
| 連絡先・備考 | ウイルス学　0285－58－7404<br>hokamoto@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　42

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 森澤　雄司 |
| 所属 | 感染免疫学講座、附属病院・感染制御部／感染症科 |
| テーマ | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine を読む |
| 学習目標 | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の中から数篇を読み、医学英語に親しむとともに、症例報告に基づいて臨床推論の論理的思考過程を追体験する。 |
| 学習方法 | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の輪読。 |
| テキスト | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine<br>の中から指定する。 |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 教育・研究棟　セミナー室13（変更あり） |
| 曜日・時刻 | 木曜日・昼休み　12：30～13：30（変更あり） |
| 期間・回数 | 未定（参加者の希望による） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席および理解度に応じて認定 |
| 連絡先・備考 | 感染制御部内線：2797<br>森澤メールアドレス：yujim@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　43

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 谷口　淳一 |
| 所属 | 分子薬理学部門 |
| テーマ | 腎と体液調節 |
| 学習目標 | 体内環境とも言える体液の組成が大きく変化すると、生命を維持することも難しくなります。このセミナーでは、体液という体内環境を維持する腎臓の働きについて学びます。腎機能をやさしく解説した英語のテキストを使用しますが、専門用語以外は、中学生程度の英語で十分です。「英語を」学ぶのではなく「英語で」学び、腎臓の不思議に迫ってみましょう。 |
| 学習方法 | 単行本の輪読 |
| テキスト | B. M. Koeppen, B. A. Stanton : Renal Physiology 4th. ed.<br>Mosby Year Book, St. Louis, 2007 |
| 対象学年 | １～３学年 |
| 場所 | 分子薬理学部門図書室（ＷＵ３－108） |
| 曜日・時刻 | 金曜日・17：00～18：30（相談の上、変更可） |
| 期間・回数 | 通年20回 |
| 単位 | １年２単位 |
| 単位認定方法 | 年間14回以上の出席 |
| 連絡先・備考 | １名以上、４名以下<br>テキストを購入する必要はありません。<br>内線：3132<br>jtangn@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　44

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 輿水　崇鏡 |
| 所属 | 分子薬理学部門 |
| テーマ | 医学生のための創薬科学入門 |
| 学習目標 | 薬が創られるまでには病気の深い理解と研究過程が必要になります。本セミナーでは医学的に重要な分子群に対して薬が創られ、臨床で評価されるまでの過程を学ぶことにより、薬物治療について理解を深めることを目的とします。 |
| 学習方法 | 英語の総説を参加者が分担して輪読した上で教官から解説を加える。 |
| テキスト | Nature reviews drug discoveryより指定。<br>必要に応じて薬理学の教科書を引用する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 分子薬理学部門（ＷＵ３－108）図書室 |
| 曜日・時刻 | 水曜日、17：00－18：00（相談により変更可） |
| 期間・回数 | ４月－３月、各学期10回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | テキストはプリントして配布します。５名以内。<br>内線：3132<br>t.koshi@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　45

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 藤村　昭夫 |
| 所属 | 臨床薬理学 |
| テーマ | 最新の薬物療法 |
| 学習目標 | 近年、新しい医薬品が数多く開発され、それに伴って多くの疾患において新しい薬物療法が試みられている。本セミナーでは、これらの新しい薬物療法の試みを理解するとともに、薬物療法の基本的原則を習得する。 |
| 学習方法 | 臨床薬理に関する最新の論文（欧文雑誌に掲載されたもの）を抄読し、これら新しい薬物療法の位置づけを行う。 |
| テキスト | 毎回配布する。 |
| 対象学年 | ４学年 |
| 場所 | 西棟３階、臨床薬理学カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 月曜日・18：00～19：00 |
| 期間・回数 | ４月～３月　週１回 |
| 単位 | 15回出席で１単位（１年２単位まで） |
| 単位認定方法 | 出席回数 |
| 連絡先・備考 | 内線2032 |

# セ ミ ナ ー 46

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 香山　不二雄 |
| 所属 | 環境予防医学部門 |
| テーマ | ドラマ「ドクターハウス」から医学と英語を学ぶ会 |
| 学習目標 | 1．米国人気ドラマ「ドクターハウス」シリーズに登場する疾病について自ら調べて学ぶ。<br>2．英語ヒアリング力を高める。<br>3．英語討論力を高める。<br>4．医学英語力を高める。 |
| 学習方法 | 1．ドクターハウスを鑑賞する。<br>2．疾病、鑑別診断について調べる。 ］事前準備<br>3．当番になった学生が、疾病について説明する。（低学年）<br>4．当番の学生（4～6年生）が鑑別診断について説明する。<br>5．英語で疾病について議論する。<br>6．英語でアメリカ人の生活やメンタリティに関して話す。（低学年） |
| テキスト | 特にないが既に購入済の指定のDVDを前もって見る。 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | その都度連絡 |
| 曜日・時刻 | 曜日は参加者の都合で後日決定　18：00～20：00 |
| 期間・回数 | 年間10回 |
| 単位 | 年間2単位 |
| 単位認定方法 | 2／3以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 香山不二雄　kayamaf@jichi.ac.jp<br>内線3137 |

# セ　ミ　ナ　ー　47

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 福嶋　敬宜 |
| 所属 | 病理学・病理診断部 |
| テーマ | 伝わる文章力・情報発信力入門 |
| 学習目標 | 医療人として生き抜くための文章力と情報発信力を身に付ける。 |
| 学習方法 | 本セミナーでは、主に医学・医療・バイオ分野などに関する、一般読者を対象とした文章執筆、情報発信について学んでいく。<br>自然科学系で求められる文章は、決して難解な言い回し、しゃれたものである必要はない。まず事実を正確に伝えること、分かりやすいことこそが求められる。また、専門的な内容を噛み砕いて伝えることも重要である。<br>セミナーを通して「伝わる文章」について考えることは、コミュニケーション能力の向上にもつながるため、文書作成、論文執筆に活かせるだけでなく症例提示、研究発表、電子メール文章など、すべての、情報発信力の向上が期待できる。<br>本人の希望により論文の書き方も指導し、小論文コンテストなどへの応募も目指す。 |
| テキスト | 大学生のための日本語表現トレーニング・ドリル編（安部朋世ら編者、三省堂）<br>推薦図書：あなたの話はなぜ「通じない」のか（山田ズーニー著、筑摩書房） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 病理診断部会議室 |
| 曜日・時刻 | 第１回目に参加者との話し合いで決める。 |
| 期間・回数 | 月１回程度＋メールでの指導 |
| 単位 | 年間１単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席と活動実績 |
| 連絡先・備考 | 問い合わせは、福嶋（nfukushima@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ　ミ　ナ　ー　48

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 苅尾　七臣 |
| 所属 | 循環器内科学部門 |
| テーマ | 循環器疾患の病態を考える |
| 学習目標 | 日常臨床のなかから未解決の重要課題をみつけ、解決する能力をやしなう。 |
| 学習方法 | 循環器疾患に関するホットな臨床論文を15分で抄読し、15分でディスカッションを行う。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 循内医局 |
| 曜日・時刻 | 火曜・ＡＭ７時50分～８時20分 |
| 期間・回数 | ４月～３月　毎週 |
| 単位 | ２単位（半年で１単位） |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 連絡先・備考 | 循環器内科医局　内線3557 |

# セ ミ ナ ー 49

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 市田　勝 |
| 所属 | 循環器内科学部門 |
| テーマ | 弁膜症の心臓超音波検査 |
| 学習目標 | 循環器病の基礎を習得したものを対象にし、特に、壁運動、心機能、弁膜症を中心として、心エコー図を判読できるようにする。 |
| 学習方法 | 当院循環器センターに入院した患者の心エコー図を読む。<br>（狭心症、心筋梗塞、弁膜症等の動画、静止画を提示） |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 循環器センター　カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 金曜日　17：30～ |
| 期間・回数 | 各学期15回 |
| 単位 | 3単位 |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 連絡先・備考 | 市田 PHS 6294 あるいは循環器内科医局　内線3557 |

# セ　ミ　ナ　ー　50

| | |
|---|---|
| 担　当　教　員 | 江口　和男 |
| 所　　属 | 循環器内科学部門 |
| テ　　ー　　マ | １枚の心電図から疾患を考える |
| 学　習　目　標 | 心電図の基本的かつ実践的な読み方を学ぶ。<br>実際の医療現場で、循環器疾患の病態をどのように考え診療していくかという考え方が理解できる。 |
| 学　習　方　法 | 実際の患者さんの心電図を見ながら循環器疾患の病態を考えていく。<br>循環器疾患の知識は確実に増えると思います。 |
| テ　キ　ス　ト | 指定のものは特になし |
| 対　象　学　年 | ２～６学年 |
| 場　　所 | 本館８Ｆエレベーター横カンファ室 |
| 曜日・時刻 | 月曜日　16：45～17：30 |
| 期間・回数 | ４月～３月　毎週 |
| 単　　位 | ２単位（半年で１単位） |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 連　絡　先　・<br>備　　考 | 参加登録やテキストなどの準備は不要です。<br>いきなり来て参加してもらっても構いません。<br>連絡先：循環器内科医局　内線3557 |

# セ ミ ナ ー 51

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 今井　靖 |
| 所属 | 循環器内科 |
| テーマ | 不整脈ケースカンファレンス |
| 学習目標 | 循環器内科に実際に入院中で、その週に治療を予定している<br>不整脈症例を通じて<br>・心電図の読影、諸検査から考えうる病態の把握<br>・薬物療法を行う場合の薬物選択・注意点<br>・非薬物療法の実際<br>カテーテルアブレーション・電気生理検査およびペースメーカー、植え込み型除細動器の適応と実際の手技についての知識を習得する。 |
| 学習方法 | |
| テキスト | 特に必要はありませんが、循環器の一般的な教科書を準備してください。<br>必要な資料は当日は配布致します。 |
| 対象学年 | M4−M6　ただし循環器内科病棟実習の経験がある方が望ましい。 |
| 場所 | 病棟２Ｆ　血管造影室　カテ室前 |
| 曜日・時刻 | 月曜日　８：00～９：00 |
| 期間・回数 | 毎週 |
| 単位 | |
| 単位認定方法 | |
| 連絡先・備考 | 参加希望者は、直接血管造影室においで頂くか、今井 PHS6819 にご連絡ください。<br>別途、月に１回、火曜日の12：00～13：00に不整脈の Journal Club を開催しています。今井までご連絡下さい。 |

# セ　ミ　ナ　ー　52

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 山本　博徳、礒田　憲夫、玉田　喜一、大澤　博之、砂田　圭二郎、畑中　恒、森本　直樹、矢野　智則、坂本　博次、牛尾　純<br>他教室員全員 |
| 所属 | 消化器内科学部門 |
| テーマ | 消化器内科臨床実技セミナー |
| 学習目標 | 卒後、へき地の診療所に赴任してもそのまま役立つ診察手技や超音波検査、内視鏡検査を模型等を使って楽しく学ぶ。 |
| 学習方法 | 実際にトレーニング機器を使用する。 |
| テキスト | 当方にて資料（PDF）を提供予定。 |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 内視鏡トレーニング室　および病棟エコー室 |
| 曜日・時刻 | 選択者と相談の上 |
| 期間・回数 | 10回／年 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 目標到達度または出席 |
| 連絡先・備考 | ５～６名程度<br>連絡先：消化器内科医局<br>ダイヤルイン　0285－58－7348 |

# セ　ミ　ナ　ー　53

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 武藤　重明 |
| 所属 | 腎臓内科学部門 |
| テーマ | 電解質輸送セミナー |
| 学習目標 | 腎臓におけるホルモンや薬物による電解質輸送機序を演習問題を通して学習し、ヒトの電解質代謝異常症の病態を理解する。 |
| 学習方法 | 演習問題の解説と討論。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 腎臓内科学医局 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決める。 |
| 期間・回数 | 年間15時間 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する。 |
| 連絡先・備考 | ３名前後（各学年）<br>連絡先：腎臓内科医局（内線3491） |

# セ ミ ナ ー 54

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 坂東　政司 |
| 所属 | 呼吸器内科学 |
| テーマ | 地域で役立つ呼吸器病学 |
| 学習目標 | 地域医療、プライマリ・ケアで必要不可欠な呼吸器疾患の病態および最新治療を学ぶ。 |
| 学習方法 | １．実際の症例を呈示し、病態・診断・治療方法を討議する。<br>２．関連文献を学習する。 |
| テキスト | 必要なものはコピー等で提供する。 |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | 本館６階南カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決める。 |
| 期間・回数 | 年10回程度（１回90分程度） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する。 |
| 連絡先・備考 | ５名程度 |

# セ　ミ　ナ　ー　55

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 森田　光哉 |
| 所属 | 神経内科学部門 |
| テーマ | ＭＧＨ神経ＣＰＣ輪読 |
| 学習目標 | New England Journal of Medicine の神経疾患症例ＣＰＣ輪読と検討を通して、神経疾患診療（病態、診断、治療）についての基礎知識と基本的考え方を修得する。 |
| 学習方法 | 症例のコピーを予め学生に配布して担当学生がまず discussionし、ついで全員で検討する。 |
| テキスト | |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 本館５Ｆ神経内科医局 |
| 曜日・時刻 | 金曜日・12：30～13：30（昼食をとりながら） |
| 期間・回数 | ４月～３月　25回 |
| 単位 | １年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | PHS：6250までご連絡ください。 |

# セ ミ ナ ー 56

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 石橋　俊 |
| 所属 | 内分泌代謝学部門 |
| テーマ | 診断学再考 |
| 学習目標 | 一般臨床において重要性の高い診断手技を EBM の立場から復習する。 |
| 学習方法 | 指定図書の抄読と随時病棟・外来実習 |
| テキスト | 参考図書<br>・DL Simel, D Rennie<br>The Rational Clinical Examination:Evidence-Based Clinical Diagnosis<br>McGraw-Hill<br>・DeGowin's Diagnostic Examination 9th ed. McGraw-Hill<br>McGee　Evidence based Physical Diagnosis, 3rd ed.　Elsevier Saunders<br>資料はコピーを配布する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 内分泌代謝科カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 目標達成度または出席 |
| 連絡先・備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　57

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岩本　雅弘 |
| 所属 | 内科学講座アレルギー膠原病学部門 |
| テーマ | iphone/iPad アプリ作成（入門編、初心者対象） |
| 学習目標 | 1．iphone/iPad アプリ作成に必要な objective C 言語の基礎の基礎を習得する。<br>2．Xcode（無料のアプリ開発ソフト）をインストールして、その利用法を習得する。<br>3．簡単な医療系アプリを作成する。 |
| 学習方法 | プロジェクターの画面を見ながら、医療系 iphone アプリを step by step で作成します。（BMI、eGFR など） |
| テキスト | なし（iphone/iPad アプリ開発に役立つ Web サイトを紹介します。） |
| 対象学年 | 3～5学年 |
| 場所 | アレルギー膠原病学医局 |
| 曜日・時刻 | 水曜日午前7時30分から　（セミナー参加者と相談の上） |
| 期間・回数 | 1年間で15回 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | すべての回に出席し、アプリが完成した場合 |
| 連絡先・備考 | アレルギー膠原病学部門医局（内線3463）<br>●．アプリ開発初心者（プログラムに接したことがない学生）を対象とするため、参加者は3人までです。<br>●．iphone/iPad アプリ開発には MacBook Air または MacBook Pro が必須のアイテムです。これらの PC 所有者がこのセミナーの対象者です。 |

# セ　ミ　ナ　ー　58

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 大槻　マミ太郎、村田　哲、小宮根　真弓、前川　武雄、<br>菅井　順一、平本　力 |
| 所属 | 皮膚科学 |
| テーマ | 遺伝子から美容まで |
| 学習目標 | 皮膚科学の幅広さ、面白さを内科的および外科的側面、病理組織学、細胞や遺伝子レベルの基礎研究、美容関連領域に至るまで、様々な見地から学ぶ。 |
| 学習方法 | スライドを用いた学習以外に、臨床の見学や実習なども行う。 |
| テキスト | Visual Dermatology（月刊）　秀潤社<br>新皮膚科レジデント、戦略ガイド　診断と治療社<br>What's NEW in 皮膚科学　メディカルレビュー社　など |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 皮膚科医局（臨床実習は別） |
| 曜日・時刻 | 初回は火曜日午後６時半に医局に集合、以降は随時 |
| 期間・回数 | ９～12月の中で計５～10回（15時間）　人数が多い場合は随時調整 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 口頭試問 |
| 連絡先・備考 | ２名以上４名以下<br>内線3419 |

# セ　ミ　ナ　ー　59

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　隆明、大塚　公一郎、岡島　美朗 |
| 所属 | 精神医学 |
| テーマ | ドイツ語圏精神病理学の研究 |
| 学習目標 | 精神医学の中核をなす精神病理学の現状を学び、同時に、テキストの読解をとおしてドイツ語の実力を養うことをめざす。 |
| 学習方法 | 文献の輪読 |
| テキスト | ドイツ語圏の最新文献からそのつど選択し、コピーして参加者に配付する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 本館５階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 金曜日・18：00～19：00 |
| 期間・回数 | 毎年４月～３月・30回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席とドイツ語読解力 |
| 連絡先・備考 | 内線7710 |

# セ　ミ　ナ　ー　60

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿部　隆明 |
| 所属 | 子どもの心の診療科 |
| テーマ | 小児精神医学 |
| 学習目標 | 小児精神医学の基礎知識を身につけると同時に、テキストの読解をとおして英語の実力を養うことをめざす。 |
| 学習方法 | 英語の教科書の輪読 |
| テキスト | CHILD AND ADOLESCENT PSYCHIATRY（Dorothy Stubbe著） |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センター　２階ミーティングルーム |
| 曜日・時刻 | 木曜日　18：00～19：00 |
| 期間・回数 | 毎年４月～３月・30回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席と英語読解力 |
| 連絡先・備考 | 内線7710 |

# セ　ミ　ナ　ー　61

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 小林　聡幸 |
| 所属 | 精神医学 |
| テーマ | 統合失調症患者の手記を読む |
| 学習目標 | 統合失調症の症状、ひいては精神疾患全般の症状について患者の視点からみることで教科書的な記載を超えた実感ある理解を得ること。 |
| 学習方法 | 八木剛平『手記から学ぶ統合失調症』金剛出版を輪読し、適宜、解説を加える。<br>また折に触れて、精神障害者の芸術作品や精神障害を病んだ創作者の作品鑑賞も行う。 |
| テキスト | 八木剛平『手記から学ぶ統合失調症』金剛出版 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 本館５階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 木曜日・12：35～13：35 |
| 期間・回数 | 年間30回 |
| 単位 | 各学期１単位、年間３単位 |
| 単位認定方法 | ２／３の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線3533 |

# セ　ミ　ナ　ー　62

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 山形、小坂、森本、河野、熊谷、南、矢田、金井、門田、小高、佐藤(智)、横山、伊東、青柳、長嶋、早瀬、小島、松本、鈴木(由)、俣野、松原 |
| 所属 | 小児科学 |
| テーマ | 小児科症例検討会 |
| 学習目標 | 小児疾患の診断の進め方について理解する。<br>小児疾患の治療についての考え方を学ぶ。<br>病態の解析のしかたを学ぶ。 |
| 学習方法 | 診断・治療等の困難な症例について共に考え、討論する。<br>（1）症例プレゼンテーションのしかたを学ぶ。<br>（2）問題点を明確にするプロセスを学ぶ。<br>（3）疾患についての最新の知見を学ぶ。 |
| テキスト | 毎回プリントが配布される。 |
| 対象学年 | 5～6学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センター　2Fカンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 木曜日・18：00～19：30 |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期1単位、1年3単位 |
| 単位認定方法 | 80%以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 毎回プリントを配布<br>内線3449 |

# セ　ミ　ナ　ー　63

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 山形、小坂、森本、河野、熊谷、南、矢田、金井、門田、小高、佐藤(智)、横山、伊東、青柳、長嶋、早瀬、小島、松本、鈴木(由)、俣野、松原 |
| 所属 | 小児科学 |
| テーマ | 小児科リサーチカンファレンス |
| 学習目標 | ・小児疾患の最新の知見について学ぶ。<br>・小児疾患各分野の臨床的、基礎的研究の動向を知る。<br>・研究の方法論を理解する。 |
| 学習方法 | 教員のプレゼンテーションを聞いて理解し、討論するトピックに関連した文献を検索し、理解を深めると共に、問題点の解明プロセスを学ぶ。 |
| テキスト | 無し<br>適宜プリントが配布される。 |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センター　２Ｆカンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 第３木曜日　18：00～19：30 |
| 期間・回数 | 各学期５回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | 80％以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線3449 |

# セ　ミ　ナ　ー　64

| | |
|---|---|
| 担　当　教　員 | 佐田　尚宏 |
| 所　　属 | 消化器・一般外科学部門 |
| テ　　ー　　マ | 膵癌を中心とした膵・胆道のＣＴ診断 |
| 学　習　目　標 | 消化期癌の中で、予後の最も悪い膵癌の画像診断を中心に、膵・胆道のＣＴ診断を基礎から学ぶ。 |
| 学　習　方　法 | ＪＵＭＰ電子カルテシステム上より症例を選択し、腹部ＣＴの系統的読影法を体得する。 |
| テ　キ　ス　ト | ＪＵＭＰ（電子カルテ） |
| 対　象　学　年 | ６学年 |
| 場　　所 | 消化器一般外科新館５Ｆセミナー室 |
| 曜　日　・　時　刻 | 隔週金曜日 p.m. 6:00 ～ 7:30 |
| 期　間　・　回　数 | 12時間、８回 |
| 単　　位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席およびセミナー時のプレゼンテーション |
| 連　絡　先　・<br>備　　考 | （内）3505　担当・西海<br>複数の学生の参加を希望します。 |

# セ　ミ　ナ　ー　65

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 小野　滋、馬場　勝尚 |
| 所属 | 小児外科学部門 |
| テーマ | 小児医療を熱く語ろう！　－小児外科の実際－ |
| 学習目標 | 現在の我が国の小児医療の現況を知ってもらう。<br>外科領域の中でも専門性の高い小児外科がどのようなものなのか、また小児の救急医療の現状はどうかを実体験してもらい、将来小児医療をめざす動機付にしてもらいたい。<br>関西出身のひとには関西弁でしゃべれる場にしたいですが、もちろん他県の人も自分たちのことばでフリーにディスカッションしましょう。 |
| 学習方法 | 小児医療とは、小児外科医とは、について学習する。<br>日常診療で経験した興味深い症例について検討すると共に、関連する学術論文を抄読する。また文献の探し方についても勉強する。<br>検討症例について発表し、そのノウハウを学習する。 |
| テキスト | Neonatal Surgery<br>Essentials of Pediatric Surgery<br>標準小児外科学　等 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センターカンファレンス室（３Ｆ）および小児外科教授室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上 |
| 期間・回数 | ４月から12月まで年10回程度。１回１時間半くらいの予定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席による |
| 連絡先・備考 | 小野（PHS 7428）<br>医局（3504） |

# セ　ミ　ナ　ー　66

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 水田　耕一、浦橋　泰然 |
| 所属 | 移植外科学部門 |
| テーマ | 移植医療について考える |
| 学習目標 | 改正臓器移植法の施行により我が国の移植治療も変化しつつある。小児生体肝移植の術前術後管理を通して、肝移植医療を学び、また国内外の移植医療の最新の実際を紹介し、移植医療について知識を深める。 |
| 学習方法 | ①小児生体肝移植に手洗い実習で参加する。<br>②移植医療に関する講演会に参加する。<br>③移植医療に関する報道番組、テレビドラマを鑑賞する。<br>④脳死移植、生体移植のＤＶＤ鑑賞を行う。 |
| テキスト | Transplantation of the Liver<br>WC Madding , ER Shiff , ME Sand<br>Third Edition<br>Lippincott Williams Wilkins<br>及びＤＶＤ教材など |
| 対象学年 | ４～５学年（できれば各学年２人ずつ） |
| 場所 | 外科医局、またはとちぎ子ども医療センター３階カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決める |
| 期間・回数 | 月に１回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 連絡先・備考 | 水田　耕一<br>e-mail:koimizu@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　67

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 三澤　吉雄 |
| 所属 | 心臓血管外科学部門 |
| テーマ | 臨床論文の書き方（症例報告） |
| 学習目標 | 臨床医には経験した症例を学会報告などで済ますだけでなく、論文として形として残すことに大きな意味がある。本セミナーでは、臨床医であるならば、先ず最初に経験するであろう、症例報告の書き方を実践から学ぶことを目標とする。 |
| 学習方法 | 臨床論文から定型的な症例報告を吟味し、その報告の意義などを探る。先ずは和文論文、ついで英文論文へと展開する。症例報告の投稿形式・投稿方法を理解する。一応の形式を理解した後に、実際の症例を論文形式に書きおろし、関連学術雑誌に投稿する。 |
| テキスト | 特に定めない。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 心臓血管外科学部門医局など |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定する。 |
| 期間・回数 | 平成27年６月～平成27年10月（10回）（変更可） |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | この４年間では８論文（７邦文、１英文）が掲載あるいは掲載が決定された。<br>論文作成に要する費用は、教室で負担する。<br>内線3514 |

# セ ミ ナ ー 68

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 齊藤　力 |
| 所属 | 心臓血管外科学部門 |
| テーマ | 大動脈瘤の画像診断と治療 |
| 学習目標 | 大動脈瘤に対する治療法としての大動脈ステントグラフト内挿術について、画像診断方法に重点をおき総合的に学習し、臨床的な位置づけを理解する。 |
| 学習方法 | 大動脈瘤について、その画像診断、計測方法、留置手順、臨床成績を実際の症例画像を用いて学習する。さらに現在の問題点、今後の展望について理解を深める。 |
| テキスト | 各種ステントグラフト取扱説明書、他 |
| 対象学年 | ２～４学年 |
| 場所 | 心臓血管外科学部門医局など |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ決定する |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月（計15時間） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 連絡先・備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　69

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 河田　政明 |
| 所属 | とちぎ子ども医療センター・心臓血管外科 |
| テーマ | 先天性心疾患を理解する |
| 学習目標 | 今までなじみのなかった種々の先天性心疾患について、形態、生理、臨床などの理解を深める。 |
| 学習方法 | 上記について代表的論文の抄読会や、討論を中心に多面的アプローチ（形態、病態生理、歴史、実際の管理、手術や関連事項など）を行う。 |
| テキスト | 適宜プリント、論文のコピーなどを配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センター３Ｆ　ＰＩＣＵ面談室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日18：30～19：30 |
| 期間・回数 | 平成27年５月～（15回程度） |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　70

| | |
|---|---|
| 担　当　教　員 | 遠藤　俊輔、坪地　宏嘉、手塚　憲志、山本　真一 |
| 所　　属 | 呼吸器外科学部門 |
| テ　ー　マ | 肺循環 |
| 学　習　目　標 | ラットを用いて病的肺モデルを作成し、肺循環動態を研究する。 |
| 学　習　方　法 | ラットに麻酔をし、気管挿管、静脈、動脈ライン留置後開胸し、病的肺モデルを作成し、肺微小循環を観察する。 |
| テ　キ　ス　ト | Microcirculation (ed.G.Kaley & B.M.Altura) |
| 対　象　学　年 | ４～５学年 |
| 場　　所 | 微小循環研究室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日18：00～ |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月 |
| 単　　位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する |
| 連絡先・備　　考 | １名 |

# セ　ミ　ナ　ー　71

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 渡辺　英寿、小黒　恵司、五味　玲、益子　敏弘、横田　英典、<br>山口　崇、中嶋　剛 |
| 所属 | 脳神経外科学 |
| テーマ | 脳神経外科を楽しむ |
| 学習目標 | 脳神経外科領域では10年前に比し診断・治療方法が確実に進んでいる。このセミナーでは講義やＢＳＬでは触れることのできない、脳神経外科の奥深い楽しい世界を体験することを目標とする。 |
| 学習方法 | 脳神経外科の様々な分野に触れる。<br>・Ｘ線写真等補助検査の読撮<br>・手術見学などの臨床の場の経験<br>・近赤外線を用いた脳科学の実習、体験<br>・脳腫瘍病理標本の観察<br>・てんかんや機能脳神経外科の基礎と臨床 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 全学年（３～６学年が望ましい） |
| 場所 | 本館７Ｆセミナー室及び脳神経外科医局 |
| 曜日・時刻 | 木曜　19：00～20：00 |
| 期間・回数 | 各学期10回で３学期（計30回を予定） |
| 単位 | 各学期１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・<br>備考 | テキストの用意は不要。<br>気楽なゼミです。皆さんでどうぞ。<br>連絡先：脳外科医局3518 |

# セ　ミ　ナ　ー　72

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 安食　孝士　ほか整形外科学教室スタッフ |
| 所属 | 整形外科学 |
| テーマ | プライマリーケアに欠かせない運動器疾患を学ぶ |
| 学習目標 | いかなる臨床分野に進んでも整形外科が扱う運動器に遭遇します。特に救急外来や地域医療では、外傷の多くが四肢や脊椎を含みます。セミナーを通じて、運動器の変性疾患や外傷性疾患の患者に当たっても、“知らない”、“名前は知ってるけど”となってしまわない知識と技術に触れてください。<br><br>①　救急外来や一般外来での代表的な運動器疾患を知る<br>②　そのための身体所見や画像所見を習得する<br>③　初期治療を学ぶ |
| 学習方法 | 学生参加型のクルズス |
| テキスト | 各セミナー時に資料を配付。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 整形外科学医局図書室 |
| 曜日・時刻 | 火または水　午後６時半開始 |
| 期間・回数 | ５月頃より10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席数４／５以上 |
| 連絡先・備考 | 内線3540<br>学年ごとに連絡係を１名決めておくこと。<br>予定の開催日に他の行事が入っている場合には、あらかじめ連絡係が秘書（井上）に申告し、日程調整の相談を行うこと。 |

# セ　ミ　ナ　ー　73

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 吉川　一郎 |
| 所属 | 小児整形外科 |
| テーマ | 医師の哲学 |
| 学習目標 | 医師となって活躍するための人間感、倫理観を養う。 |
| 学習方法 | 準備した書籍の一部（抜粋）を輪読する。 |
| テキスト | 当方で準備する |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | 新館２階　整形外科セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 月１回　水曜日　午後５時～（詳しくは学生と相談した上で決定する） |
| 期間・回数 | ４月～１月 |
| 単位 | 年１単位 |
| 単位認定方法 | 出席数４／５以上 |
| 連絡先・備考 | 内線3540（整形外科医局）<br>定員６名まで<br>連絡係を一人決めておくこと |

# セ ミ ナ ー 74

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 大口　昭英 |
| 所属 | 産科婦人科学講座 |
| テーマ | 妊娠高血圧症候群 |
| 学習目標 | 妊娠高血圧症候群は、妊娠中に発生する①妊娠高血圧、②妊娠高血圧腎症、③加重型妊娠高血圧腎症、④子癇の４つを総称した名称である。日本人では、妊婦の5～10％に発症し、周産期死亡の約30％、母体死亡の約25％に関連する。自治医大では年間100例程度の疾患を扱っている。<br>妊娠高血圧症候群の発生原因はいまだに解明されていない。この病態は初産婦に多く発生することが知られており、母児間の免疫寛容の異常の関連が推測されている。妊娠高血圧症候群に関連した論文から月に１編を選んで抄読する。 |
| 学習方法 | 原典精読 |
| テキスト | 当方にて資料（PDF）を提供。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 産婦人科セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 第３金曜日　18：30～（適宜変更あり） |
| 期間・回数 | 通年、計10回（８月、３月を除く） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 妊娠高血圧症候群関連の英語論文（これまで45編）<br>主な論文：<br>1. Ishibashi O, Ohkuchi A, Ali MM, et al. Hydroxysteroid (17-$\beta$) dehydrogenase 1 is dysregulated by miR-210 and miR-518c that are aberrantly expressed in preeclamptic placentas: a novel marker for predicting preeclampsia. Hypertension 2012; 59: 265-73.<br>2. Ohkuchi A, Hirashima C, Matsubara S, et al. Threshold of soluble fms-like throsine kinase 1/placental growth factor ratio for the imminent onset of preeclampsia. Hypertension 2011; 58: 859-66.（平成24年度自治医科大学優秀論文賞）<br>3. Suzuki H, Ohkuchi A, Matsubara S, et al. Effect of recombinant placental growth factor 2 on hypertension induced by full-length mouse soluble fms-like tyrosine kinase 1 adenoviral vector in pregnant miee. Hypertension 2009; 54: 1129-35.（平成22年度自治医科大学優秀論文賞、2009年 SGI Award、平成21年度日本産科婦人科学会優秀論文賞）<br>現在の研究テーマ：<br>現在、自治医科大学分子病態研究部、及び、東京農業大学家畜繁殖学研究室と自然炎症、妊娠免疫について、日本医科大学分子解剖学講座と miRNA についての共同研究が進行中。<br>その他、妊娠高血圧症候群のバイオマーカーの開発、赤血球膜脂質構成に関する研究、家庭血圧測定による早期発見の開発もテーマである。<br>連絡先：大口（okuchi@jichi.ac.jp）、PHS（6202） |

# セ ミ ナ ー 75

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 嵯峨　泰 |
| 所属 | 産科婦人科学 |
| テーマ | 腹膜播種、血管新生抑制を標的とした卵巣癌治療 |
| 学習目標 | 卵巣癌は進行例が多いため、手術時にすでに腹膜播種を来している場合が多い。腹膜播種、血管新生抑制を標的とした、いわゆるdormancy therapyがこれからのトピックとなろう。このような新しい癌治療の概念と最新の知見を勉強する。 |
| 学習方法 | 最新の文献を中心とした抄読が主たる学習方法である。細胞培養、ヌードマウス、遺伝子導入等を見学する。研究室の成績についてディスカッションする。 |
| テキスト | 最新の文献を配布する。 |
| 対象学年 | ４～５学年 |
| 場所 | 産婦人科医局 |
| 曜日・時刻 | 火曜日・16：30～18：00 |
| 期間・回数 | 隔週　１学期　５回　　２学期　５回 |
| 単位 | １年１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | ５名程度<br>テキスト購入不要<br>連絡先：内線（3444） |

# セ ミ ナ ー 76

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 八木澤　隆 |
| 所属 | 腎臓外科学部門 |
| テーマ | 臓器不全の代替治療（腎不全を例に） |
| 学習目標 | 代替治療（人工腎臓、腎移植）の進歩により、今や腎不全は死に至る病ではなくなった。腎不全の病態、人工腎臓、腎移植の原理、治療の実際などを学ぶ。 |
| 学習方法 | 最新の review paper また original paper を題材とする。また実際を紹介する。 |
| テキスト | おもに英文雑誌の review paper |
| 対象学年 | ３～５学年 |
| 場所 | 腎臓外科学教授室 |
| 曜日・時刻 | 選択者と相談 |
| 期間・回数 | 月に１～２回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 参加 |
| 連絡先・備考 | 腎臓外科学部門<br>内線3874 |

# セ ミ ナ ー 77

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 西野　宏 |
| 所属 | 耳鼻咽喉科学 |
| テーマ | 耳鼻咽喉領域の症状からみた診断の進めかた |
| 学習目標 | 耳鼻咽喉・頭頚部領域の症状から検査・診断の進めかたを学ぶ。例えば嚥下障害や呼吸困難などプライマリーケアーで遭遇する症状において、耳鼻咽喉科領域に限らず総合医としての検査・診断・治療技術を学ぶ。<br>〔例〕<br>・呼吸困難　・嗄声　・頸部リンパ節腫脹　・難聴<br>・めまい　・鼻出血　・嚥下障害 |
| 学習方法 | ・実際の症例を呈示し、検査・診断方法を討議する。その際に配付された資料を利用し理解を深める。<br>・患者本人同意を得た後に、実際の入院患者において実技実践をおこなう。 |
| テキスト | 資料をＰＤＦファイルで配付。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 耳鼻咽喉科教室内 |
| 曜日・時刻 | 月、１日１時間30分 |
| 期間・回数 | １学期４回、２学期４回、３学期２回、計10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | hiroshi@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　78

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 竹内　護、五十嵐　孝、堀田　訓久、佐藤　正章 |
| 所属 | 麻酔科学 |
| テーマ | 臨床麻酔学およびペインクリニック |
| 学習目標 | 1．心疾患、肺疾患、内分泌疾患などを合併する患者の手術において、麻酔がどのような影響を及ぼすかを理解できる。<br>2．周術期の患者管理を理解できる。<br>3．麻酔と偶発症を理解できる。<br>4．ペインクリニックを理解できる。 |
| 学習方法 | 1．関連文献によって学習する。<br>2．症例検討会に参加し、臨床例について具体的に学習する。 |
| テキスト | プリントを配布する。<br>参考図書：Anesthesiology, British Journal of Anaesthesia,<br>Basics of Anesthesia,<br>Anesthesia and Analgesia, Regional Anesthesia,<br>New Eng J Med, 他 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 中央手術部カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 木または金曜日　18時～ |
| 期間・回数 | 4月～3月、週1回 |
| 単位 | 2単位（年間30回　30コマ、30時間） |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線：3427 |

# セ ミ ナ ー 79

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 佐藤　正章 |
| 所属 | 麻酔科学 |
| テーマ | 患者急変対応 |
| 学習目標 | 1．患者急変に対応できる。<br>2．成人教育の必要性を理解できる。<br>3．AHA（アメリカ心臓協会）－BLS（Basic Life Support：一次救命処置）のインストラクター候補になれる。<br>4．卒業後にAHA-ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support：二次救命処置）のインストラクター候補になれる。 |
| 学習方法 | ACLS-EP を活用する。 |
| テキスト | 1．AHA BLSヘルスケアプロバイダーインストラクターパッケージ（中山書店）<br>2．AHA ACLSインストラクターパッケージ（シナジー） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 中央手術部学生実習室 |
| 曜日・時刻 | 木または金曜日　18時～ |
| 期間・回数 | 4月～3月、月1～2回 |
| 単位 | 1単位（年15回、15コマ、15時間） |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 内線：3427 |

# セ　ミ　ナ　ー　80

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 布宮　伸 |
| 所属 | 集中治療医学 |
| テーマ | 集中治療の現状 |
| 学習目標 | 集中治療医学の世界的な潮流に触れ、集中治療が現在抱える問題点や今後の研究課題などを検討する。またその過程を通して、臨床的解決方法を見出す習慣を身に付ける。 |
| 学習方法 | Current Opinion in Critical Care に掲載される systematic review article の中から、毎回１編を選び、全員で輪読しながら討論を行う。<br>適宜、臨床事例を供覧する。 |
| テキスト | 文献をコピーし、事前に配布する。 |
| 対象学年 | ４学年以上が望ましい。 |
| 場所 | 本館西棟２Ｆ　集中治療医学医局図書室 |
| 曜日・時刻 | 隔週月曜日　18時～19時 |
| 期間・回数 | ４月から15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席回数と討論内容 |
| 連絡先・備考 | 集中治療医学医局（内線3438） |

# セ　ミ　ナ　ー　81

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 紺野　啓、谷口　信行、鯉渕　晴美、宮本　恭子 |
| 所属 | 臨床検査医学 |
| テーマ | 超音波診断の理論と実践（エコーゼミ） |
| 学習目標 | 1)　各領域の超音波検査に必要な基礎的知識を身につける。<br>2)　腹部、心臓など領域ごとに基本的な検査手技を身につける。<br>3)　各領域における代表的な異常所見を理解する。<br>4)　適切なレポート作成やプレゼンテーションの方法を身につける。<br>5)　超音波検査に関する最新の知識に触れる。 |
| 学習方法 | 1)　テーマごとのミニレクチャーにより超音波検査に関する知識を学ぶ。<br>2)　お互いに検者および被検者となって実習を行い、基本的検査手技を身につける。<br>3)　症例検討を通じてレポート作成とプレゼンテーションの方法を学ぶ。 |
| テキスト | 必要に応じて適宜指示する。<br>その他必要な資料は適宜配布する。 |
| 対象学年 | ５学年 |
| 場所 | 臨床検査医学医局および中央検査部検査室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日または水曜日　午後 5：30～ 6：30 |
| 期間・回数 | ５月～11月（20コマ） |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席数、レポート、プレゼンテーション、理解度・到達度を総合的勘案し評価する。 |
| 連絡先・備考 | 10名以内。<br>熱意のある学生には、関連学会・研究会等で発表を行う機会が与えられる場合がある。<br>臨床検査医学（内）2230 |

# セ　ミ　ナ　ー　82

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 山田　俊幸、小谷　和彦、鯉渕　晴美、宮本　恭子、山本　さやか |
| 所属 | 臨床検査医学 |
| テーマ | 検査値から読み解く病態生理学 |
| 学習目標 | 血液検査や生化学検査のデータが意味する背景を理解し、検査値を病態解析に活用できるようになる。 |
| 学習方法 | 症例の基本的な検査データだけを呈示し、何処まで病態を読み取れるかのトレーニングをする（reversed CPC）。 |
| テキスト | 別途紹介する。 |
| 対象学年 | ５学年 |
| 場所 | 臨床検査医学実習室 |
| 曜日・時刻 | 月曜日または火曜日夕方１時間程度。詳細は相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | ５月～12月、月２～３回程度（コースワークとして全15回） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席と目標の達成度により評価する。 |
| 連絡先・備考 | ５～６名程度受け入れる。<br>臨床検査医学（内）2230 |

# セ　ミ　ナ　ー　83

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 小谷　和彦、山田　俊幸 |
| 所属 | 臨床検査医学 |
| テーマ | Clinical Chemistry を読む |
| 学習目標 | 米国臨床化学会の機関誌には、学生向けの「検査値を読み解く」、「検査の原理を知る」あるいは「臨床検査医学的な考え方とは何か」について学ぶ論文が収載されている。これを題材とする英文抄読会を行い、英文に慣れるとともに、臨床検査医学的思考法を習得する。 |
| 学習方法 | 指定された論文を訳し、これに基づいてセミナー参加者間で相互ディスカッションを行う。 |
| テキスト | 適宜紹介する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 臨床検査医学実習室 |
| 曜日・時刻 | 夕方１～２時間程度。相談の上で詳細は決める。 |
| 期間・回数 | ５月～12月、月１～２回程度（コースワークとして全10回） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席と目標の達成度により評価する。 |
| 連絡先・備考 | 若干名を受け入れる。<br>臨床検査医学（内）2230 |

# セ　ミ　ナ　ー　84

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿野　正樹、米川　力、伊澤　祥光、鈴川　正之 |
| 所属 | 救急医学 |
| テーマ | 救急集中治療 |
| 学習目標 | ・救急外来を受診する多彩な患者に対して適切なトリアージと緊急処置が実践できるようになる。<br>・様々な重症度の救急患者に対する初療から退院までの診療について学ぶ。 |
| 学習方法 | ・シミュレーショントレーニング<br>・症例検討<br>・文献の抄読<br>・体幹外傷手術の学習と手術実習 |
| テキスト | ・特に定めない |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 救急医学医局 |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決定する。 |
| 期間・回数 | H27年4月～H28年3月　月1回程度 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席及び学習態度 |
| 連絡先・備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　85

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 米川　力、伊澤　祥光、鈴川　正之 |
| 所属 | 救急医学 |
| テーマ | 学会発表にチャレンジしよう |
| 学習目標 | 救急医療分野で行われている検査・手技など様々な事象の中からテーマを選び、データ収集・整理や文献検索などの手法を学びながら、学会発表までの一連の流れを理解する。<br>日本臨床救急医学会での学会発表を目標にデータをまとめる。 |
| 学習方法 | セミナーはディスカッション方式で行う。<br>セミナーで話し合われた内容について、セミナー時間外の自己学習・グループ学習が中心になります。 |
| テキスト | ・特になし |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 救急医学医局 |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決定する。 |
| 期間・回数 | H27年４月～H28年３月　月１回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席及び学習態度 |
| 連絡先・備考 | 連絡先：米川（PHS 7167） |

# セ　ミ　ナ　ー　86

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 武藤　弘行 |
| 所属 | 情報センター |
| テーマ | 内視鏡の実技と所見の読み方 |
| 学習目標 | モデルを用いた内視鏡検査の実技。<br>内視鏡所見の読み方。 |
| 学習方法 | モデルを用いた内視鏡検査の実技。実際に手を動かすことにより内視鏡画像の理解を深める。所見を内視鏡肉眼所見のみならず病理、背景を含めて理解することを目的とする。 |
| テキスト | 特にありませんが、内視鏡所見が読めるようになるとテキストを手元に置きたくなるようになることを目指します。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 内視鏡トレーニングルーム |
| 曜日・時刻 | 木曜日　12：40～13：30 |
| 期間・回数 | ２学期９月から12月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 連絡先・備考 | |

# セ ミ ナ ー 87

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 河野　龍太郎、鈴木　義彦、淺田　義和 |
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | ヒューマンエラー事象分析手法：Im SAEFR |
| 学習目標 | 1．ヒューマンエラー発生メカニズムを学ぶ<br>2．エラー対策の考え方を学ぶ<br>3．分析に基本的考え方を学ぶ<br>4．分析手順を学ぶ<br>5．対策立案方法を学ぶ |
| 学習方法 | 1．文献調査<br>2．講義<br>3．分析実習 |
| テキスト | 必要なものはコピー等で提供する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | メディカルシミュレーションセンター |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ決定 |
| 期間・回数 | 2学期10回 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて認定する |
| 連絡先・備考 | 20名程度、職員、看護学部生も参加歓迎<br>ヒューマンエラーの関係した事例の分析において重要なことは、ヒューマンエラー発生メカニズムを理解することであり、Im SAEFR は、ヒューマンエラー発生メカニズムに着目し、エラー行動を基本に分析を進めていく。<br>Im SAEFR は、(1) 安定した分析結果が得られる、(2) 効率的に背後要因を抽出できる、(3) 多面的で多様な対策を考えるためのガイドラインがある、(4) 時間や人員などのリソースに応じて分析レベルを選択できる、などの特徴を持った、新しいヒューマンエラー事象分析手法である。<br><br>連絡先：rkawano@jichi.ac.jp<br>内線3880 |

# セ　ミ　ナ　ー　88

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　義彦、淺田　義和 |
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | 医療シミュレーション教育の体験 |
| 学習目標 | ・医療におけるシミュレーション教育の体験<br>　・スキルベースの教育<br>　・シナリオベースの教育<br>・医療シミュレーション教育の限界を知る<br>・医療シミュレータ |
| 学習方法 | ・シミュレーションセンターの保有するシミュレータを利用した、BLS、ACLS や穿刺をはじめとした医療教育の体験<br>・文献講読およびディスカッション |
| テキスト | 特になし。<br>必要に応じてプリント等を配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟７Ｆ　メディカルシミュレーションセンター |
| 曜日・時刻 | 毎週～隔週１回程度、17時半以降：詳細は参加者と相談のうえ決定。 |
| 期間・回数 | １回1.5時間程度×15回を予定、応相談。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 授業への出席と貢献度 |
| 連絡先・備考 | 主にスキル学習・態度学習をテーマとして、シミュレーションセンターの器材を利用した自己学習の機会を設ける。基本的には「学生同士の学び合い・教え合い」を促進するためのセミナーとなる。興味のある学生は看護学部の学生も歓迎する。<br><br>質問等は yasada@jichi.ac.jp まで |

# セ　ミ　ナ　ー　89

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 淺田　義和 |
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | 医療のためのマインドマップ基礎講座 |
| 学習目標 | 英国の教育者・Tony Buzan 氏の開発した思考技術であるマインドマップに関して学習する。マインドマップの書き方だけではなく、思考の整理や発想法としての応用手法に関しても習得する。<br>時間に余裕がある場合、医療分野での適用に関するディスカッション等と合わせて実践的な演習を行う。 |
| 学習方法 | 以下の日程で計画しているが、参加者との相談で最終決定。<br>・ガイダンス（初回）<br>・マインドマップとその背景　＋　ワークショップ（４回）<br>・マインドマップの書き方　　＋　実践（３～４回）<br>・マインドマップの応用性　　＋　グループワーク（１～２回） |
| テキスト | プリント・資料を適宜利用する。<br><br>参考書（あくまでも参考書であり、必ずしも購入・持参する必要はない。<br>「ザ・マインドマップ」（ダイヤモンド社、2005） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 原則として、記念棟７Ｆ |
| 曜日・時刻 | 週１回、17時半開始を予定。詳細は参加者と相談で決定。 |
| 期間・回数 | 通年、合計10回程度。開催日時と合わせ、相談により決定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席。 |
| 連絡先・備考 | 10名程度。希望者多数の場合、相談の上で２コマまでは同時開催の予定。（例：同一の内容を月曜と木曜で開催、など）<br>原則として医学部生を対象とするが、興味のある学生は看護学部の学生も歓迎する。<br><br>質問は yasada@jichi.ac.jp まで |

# セ　ミ　ナ　ー　90

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 淺田　義和、鈴木　義彦 |
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | 医療教育とインストラクショナル・デザイン |
| 学習目標 | ・インストラクショナル・デザイン（ID、効果的・効率的・魅力的な教育を提供していくための方法論）に関する基礎知識を習得する。<br>・学生同士で教え合う課程において、ID を活用した指導ができる。<br>・自分自身の生涯学習において、IDの知見を取り入れた学習を行うことができる。 |
| 学習方法 | ・e ラーニング（moodle）上での演習<br>・グループでのディスカッション<br>・実際に（シミュレーション等を題材に）テーマを決めて、「教え合う」行為の実践演習 |
| テキスト | 特になし。<br>必要に応じてプリント等を配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟７Ｆ　メディカルシミュレーションセンター |
| 曜日・時刻 | 毎週～隔週１回程度、17時半以降：詳細は参加者と相談のうえ決定 |
| 期間・回数 | 応相談。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 授業への出席と貢献度 |
| 連絡先・備考 | 2013年度より１年生の選択科目として開講した「インストラクショナル・デザイン入門」について、主に非履修者を対象にセミナーとして開講する。実際の授業よりも時間数が多いため、より発展的な内容も扱う。<br>選択科目履修済の学生も受講可能だが、選択科目履修済でさらに単位修得が必要な場合は発展的な課題を実施する必要がある。<br>質問等は yasada@jichi.ac.jp まで |

# セ　ミ　ナ　ー　91

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 淺田　義和、鈴木　義彦 |
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | 医療者のための IT・ICT 入門 |
| 学習目標 | ・医療従事者として必要な IT・ICT のリテラシーを身につける<br>・個人情報、プライバシー、著作権問題、マナー<br>・オンラインの場で、リテラシーに沿った形で情報発信ができる<br>・医療現場に役立ちうるツールを理解し、使用できる<br>・iPad や e ラーニングなど、IT を利用した学習環境を経験する |
| 学習方法 | ・e ラーニング（moodle）上での演習・ディスカッション（オンライン）<br>・事例を元にしたディスカッション（対面で）<br>・その他、PC や iPad 等のアプリ活用事例の紹介と実践 |
| テキスト | 特になし。適宜、プリント等を配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟７Ｆ　メディカルシミュレーションセンター |
| 曜日・時刻 | 毎週～隔週１回程度、17時半以降：詳細は参加者と相談のうえ決定 |
| 期間・回数 | １回1.5時間程度×15回を予定だが、応相談。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 授業への出席と貢献度。 |
| 連絡先・備考 | 近年では IT 技術の発達に伴い、医療現場での活用範囲も増えている。一方、十分なリテラシー教育が為されていない事もあり、twitter での炎上事件のような事例も目にすることが増えている。<br>医療者として必要最低限の IT・ICT を学ぶ機会として、本セミナーを設ける。医学部のみならず、看護学部の学生の参加も歓迎する。<br>質問は yasada@jichi.ac.jp まで |

# セ　ミ　ナ　ー　92

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岡崎　仁昭、松山　泰 |
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 内科鑑別診断のポイント |
| 学習目標 | N Engl J Med の Case Records of the MGH と Clinical Problem-Solving とを教材に、実地臨床に役立つ内科鑑別診断の方法を学ぶ。 |
| 学習方法 | N Engl J Med の Case Records of MGH と Clinical Problem-Solving とを教材に、発表者を毎回決めて、参加者全員で討論する。参加には、ある程度の英語力と毎回出席し予習してくることを条件とします。 |
| テキスト | プリントを毎回、１週前に配付する。 |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | 医学教育センター |
| 曜日・時刻 | 木曜日・12：30～13：30 |
| 期間・回数 | 週１回（期間は皆で相談） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 学ぶ意欲のある学生を歓迎します。人数は10名以内。<br>申込みは、医学教育センター受付（記念棟９Ｆ／内線3252）<br>５／８（金）までにお願いします。 |

# セ　ミ　ナ　ー　93

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岡崎　仁昭、松山　泰 |
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | USMLE 対策コース |
| 学習目標 | USMLE 受験を目指す。 |
| 学習方法 | First Aid for the USMLE Step 1.2013 を教材に、参加者全員で問題を解きながら討論する。 |
| テキスト | FIRST AID FOR THE USMLE STEP 1.2013 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 医学教育センター |
| 曜日・時刻 | 金曜日・12：30～13：30 |
| 期間・回数 | 週１回（期間は皆で相談） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | USMLE 受験を目指す、意欲のある学生を歓迎します。<br>人数は５名以内。<br>申込みは、医学教育センター受付（記念棟９Ｆ／内線3252）<br>５／８（金）までにお願いします。 |

# セ　ミ　ナ　ー　94

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 石川　鎮清 |
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 公共哲学について考えてみよう |
| 学習目標 | 公共哲学の概要を知り、議論しながら理解を深める。 |
| 学習方法 | テキスト、プリントを用いる。<br>DVD を視聴する。<br>その他、参加者を相談の上、決定する。 |
| テキスト | ハンナ・アーレント：「戦争の世紀」を生きた政治哲学者<br>矢野久美子著　中央公論社<br>他 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 医学教育センター |
| 曜日・時刻 | 月１、２回で相談して決める。（候補日：金曜日　16：30～） |
| 期間・回数 | 通年10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が判断する。 |
| 連絡先・備考 | 内線4847 |

# セ　ミ　ナ　ー　95

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 石川　鎮清 |
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 身体所見から診断を考える |
| 学習目標 | 身体所見や簡単な検査所見から鑑別診断について検討する。<br>疾患の頻度や検査特性について勉強する。<br>全体を通してＥＢＭの実践を学ぶ。 |
| 学習方法 | ・ＪＡＭＡの Rational Clinical Examination のシリーズを読む。<br>・必要に応じてロールプレイ、診断手技の確認を行う。 |
| テキスト | 適宜コピーを配布：Rational Clinical Examination シリーズ |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 本館２Ｆ　地域医療学センター　カンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 水曜日　12：30～13：30 |
| 期間・回数 | 年間20回以上を予定 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | このテーマに興味のある医師も参加の可能性あり。<br>内線4847 |

# セ　ミ　ナ　ー　96

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 金井　信行 |
| 所属 | 医学教育センター／病理学・病理診断部 |
| テーマ | 楽しく医学知識を身につける |
| 学習目標 | 病態生理を踏まえ、記憶することを減らし、効率よくすべての範囲の医学知識を身につける。 |
| 学習方法 | 医学知識の議論と下記テキストの抄読 |
| テキスト | メディカルインデックス　金井信行著　医学評論社<br>（基礎医学から、プライマリケアレベルまで、すべてを１冊で含む画期的な医学テキスト）<br>その他、希望に応じて、上記の本の元になった、<br>USMLE FirstAID、Current Medical Diagnosis & Treatment 、Current Diagnosis & Treatment in Pediatrics 、The Merk Manual<br>などを使っての勉強も可能。<br>さらに、CBT や国家試験の問題集、あまり専門すぎないテキストの抄読、試験の過去問などの相談にも対応する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 人数により指示する |
| 曜日・時刻 | ７：50～８：30、12：35～13：35、放課後（可能な曜日あり）の他授業、実習のない時間、夏、冬、春休み中も相談により対応可能。先約順であり、日程の調整がつかない場合には待機してもらうことがある。無断欠席などの場合は、待機の学生を優先する。 |
| 期間・回数 | 累計15時間 |
| 単位 | １単位、各学期１単位、年間３単位まで |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | １～10人程度、複数のグループに対応する。<br>CBT や国家試験、またはこれらの模試で大幅に順位を上げたい人に有用。上記テキストは USMLE を参考にしているので、USMLE についても効果があると考えられる。本学の定期試験、総合判定試験については、科によって特色のある出題をしているため、成績大幅向上は期待できないことがある。<br>当方の目的は学生がわからないところを知ることであり、話を聞くのみの学生の参加は希望しない。成績不良者歓迎。<br>連絡先：メールアドレス　nkanai@jichi.ac.jp<br>内線3323（病理診断部）　PHS 6739 |

# セ　ミ　ナ　ー　97

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 丹波　嘉一郎 |
| 所属 | 緩和ケア部 |
| テーマ | 緩和ケア入門　「緩和ケアいろは歌」を読み解く |
| 学習目標 | 「緩和ケアいろは歌」を通して緩和ケアの基礎を学ぶ |
| 学習方法 | 予め配布する「緩和ケアいろは歌」（アニメ入りパワーポイント）を毎回数枚ずつ観て、討論し、作者（丹波）が解説する。 |
| テキスト | 特に定めない。参考文献等は紹介する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 本館７階南棟　緩和ケア部カンファ室 |
| 曜日・時刻 | 毎月第２木曜・18：00～19：30（調整あります） |
| 期間・回数 | 年間10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ７回以上の参加 |
| 連絡先・備考 | kanwairyou@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　98

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 丹波　嘉一郎、井上　荘一郎、岡島　美朗 |
| 所属 | 緩和ケア部 |
| テーマ | 緩和ケアのスタンダードについて考える |
| 学習目標 | カナダの標準的な緩和ケアマニュアルを読んだり、必要に応じて新たな文献を紹介して、緩和ケアのスタンダードとは何かを考える。 |
| 学習方法 | The Pallium Palliative Pocketbook の改訂版の抄読会<br>緩和ケアに関する新しい文献の抄読会 |
| テキスト | The Pallium Palliative Pocketbook |
| 対象学年 | 臨床的なので 4 学年以上が望ましい |
| 場所 | 本館 7 階南棟　緩和ケア部カンファ室 |
| 曜日・時刻 | 毎週木曜日　昼の12時30分～ |
| 期間・回数 | |
| 単位 | 1 単位 |
| 単位認定方法 | 月 1 回以上の出席 |
| 連絡先・備考 | kanwairyou@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　99

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 梶井　英治 |
| 所属 | 地域医療学 |
| テーマ | わが国における医療の現状分析と将来展望 |
| 学習目標 | わが国の医療の現状を分析し解決策を探り、医療の将来あるべき姿を模索する。 |
| 学習方法 | 参加各人が課題を持ち、セミナーの進行を通して学内外から招く講師と議論を重ねながらその課題を解決する手法で学習を行う。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 地域医療学教室 |
| 曜日・時刻 | 希望者と相談の上、決定 |
| 期間・回数 | 年間25回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ３／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | 学内外から招く講師および当教室員の協力を仰ぐ。<br>内線3390 |

# セ　ミ　ナ　ー　100

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 三瀬　順一 |
| 所属 | 地域医療学部門 |
| テーマ | 家庭医療学の基本 |
| 学習目標 | 1．家庭医療学の基本概念を知る。<br>2．家庭医療の実践に必要な知識と技術を身につける。<br>3．行動科学と臨床疫学の基本を身につける。<br>4．設定に合わせた医療のあり方を考え、自分の意見をもてるようにする。 |
| 学習方法 | 1．テキストの輪読（テキスト1．と4．ときに5．）<br>2．ディスカッション<br>3．小規模な記述研究<br>4．実地修練又は見学 |
| テキスト | 1．Mcwhinney IR：A textbook of Family Medicine 3rd Ed, 2009<br>2．Taylor R：Family Medicine 6th Ed. 2000<br>3．日本家庭医療学会編　新家庭医　プライマリ・ケア医入門, 2010<br>4．葛西龍樹訳：マクウィニー家庭医療学　上巻, 2013<br>5．葛西龍樹：医療大転換, 2013 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 本館2階西　地域医療学部門（2階西病棟跡地） |
| 曜日・時刻 | 木曜日、18時～19時30分 |
| 期間・回数 | 90分×30回 |
| 単位 | 2単位 |
| 単位認定方法 | 参加者による評価 |
| 連絡先・備考 | 三瀬順一　内線3391　PHS 6216 |

# セ　ミ　ナ　ー　101

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 牧野　伸子、石川　由紀子、松村　正巳 |
| 所属 | 地域医療学センター・公衆衛生学 |
| テーマ | 地域医療と女性医師支援 |
| 学習目標 | 医師として地域に赴任した時に直面する地域住民としての生活について学び、より良いワークライフバランスの実現に役立てる。 |
| 学習方法 | ①　仕事とパーソナルライフの充実に関した、ディスカッションを行う。<br>②　地域に赴任した医師とその家族の体験を、アンケート等の手法を用いて調査解析し、地域で生活するノウハウを学ぶ。 |
| テキスト | 適宜配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 地域医療学教室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日または木曜日、12時半から13時半 |
| 期間・回数 | 15回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 連絡先・備考 | 牧野伸子　PHS 6548 |

# セ　ミ　ナ　ー　102

| | |
|---|---|
| 担　当　教　員 | 亀崎　豊実 |
| 所　　属 | 地域医療支援部門 |
| テ　ー　マ | 貧血を考える |
| 学　習　目　標 | 貧血について理解を深める |
| 学　習　方　法 | 下記テキストと関連する論文の輪読 |
| テ　キ　ス　ト | ・Immune Hemolytic Anemias 2nd Edition (2003)<br>・適宜、プリントを配布します。 |
| 対　象　学　年 | 全学年 |
| 場　　所 | 地域医療オープン・ラボ（DS-001） |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | 週１回程度 |
| 単　　位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 連　絡　先　・<br>備　　考 | 0285－58－7394、又は内線2338 |

# セ　ミ　ナ　ー　103

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 松村　正巳 |
| 所属 | 総合診療部門 |
| テーマ | 臨床推論を学ぶ |
| 学習目標 | 臨床推論の過程を愉しみながら学ぶ。 |
| 学習方法 | 英語で書かれた症例報告、もしくは Clinical Problem-Solving を抄読する。 |
| テキスト | Journal of General Internal Medicine（JGIM）、New England Journal of Medicine（NEJM）の症例報告、Clinical Problem-Solving を用いる。 |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 地域医療学教室 |
| 曜日・時刻 | 第１・３金曜日　12：00～13：00 |
| 期間・回数 | 平成27年４月～平成28年３月　　年20回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 連絡先・備考 | 外線：0285－58－7394<br>内線：2961 |

# セ　ミ　ナ　ー　104

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 中村　好一、牧野　伸子、青山　泰子、小谷　和彦、阿江　竜介 |
| 所属 | 公衆衛生学部門 |
| テーマ | 病気になる人、ならない人 |
| 学習目標 | データ解析を通じて病気の頻度を規定する因子について科学的に考える方法を学ぶ。 |
| 学習方法 | 教室内にある疫学データを解析する。可能であれば学会発表や論文作成にもチャレンジする。 |
| テキスト | 特に定めない<br>参考文献（先輩達の成果）<br>１）槙尾崇、他、自動車事故死亡の都道府県格差に関する要因、日本公衛誌　1997；44（10特別附録）：190.<br>２）黒川雅史、他、離婚の疫学、月刊地域医学　2001；15(8)646-651. |
| 対象学年 | ３～５学年 |
| 場所 | 公衆衛生学研究室１（Ｅ１－108） |
| 曜日・時刻 | 参加者と相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | ５月～12月隔週１回　20コマ |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | ２年間以上にわたる継続受講も可能 |

# セ　ミ　ナ　ー　105

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 中村　好一、牧野　伸子、青山　泰子、小谷　和彦、阿江　竜介 |
| 所属 | 公衆衛生学部門 |
| テーマ | 疫学統計の概念を学び、実践する |
| 学習目標 | 疫学統計の基本を理解し、実例や論文などを通して実践を学ぶ |
| 学習方法 | 毎月4回のうち、第1～3回についてはテキストを使って疫学統計の基礎を勉強していく。また、毎月第4回目は、疫学に関連する論文や、参加者の研究内容を発表しディスカッションをして疫学、公衆衛生への実践、応用をはかる。 |
| テキスト | 疫学、生物統計学に関する和洋書<br>（テキストは公衆衛生学教室で提供する）<br>過去のテキスト：福井次矢（監）, 臨床疫学<br>CDC, Principles of Epidemiology (3rd edition) |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 公衆衛生学研究室1（E1－108） |
| 曜日・時刻 | 火曜日（18：00～19：30） |
| 期間・回数 | 5月～3月　40回 |
| 単位 | 2単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 連絡先・備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　106

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 西村　智、大森　司、瀬尾　欣也 |
| 所属 | 分子病態研究部 |
| テーマ | バイオイメージング技術を用いた生体へのアプローチ：血栓・炎症 |
| 学習目標 | 生活習慣病、特に心血管病の理解には分子生物学的な遺伝子解析手法に加えて、生体をそのまま光で捉えるバイオイメージング手法は有用である。本セミナーでは特に、慢性の炎症機転を介した動脈硬化巣の形成、その破綻、血栓形成イベント過程の可視化を行う。最先端の蛍光二光子顕微鏡を用いた可視化技術をはじめとするあらたな研究・診断・治療手法に触れ、血栓や炎症メカニズムへの理解を深める。学術論文の抄読のほか、バイオイメージングを用いた実験の現状についても実機実サンプルを用いた実習をする。 |
| 学習方法 | 関係する学術論文の抄読と議論を行う。<br>バイオイメージングによる生体内の血栓形成イベントの可視化、などの、最先端の研究についても見学および実習を行う。 |
| テキスト | テーマを選び、関連論文・文献を指定する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 分子病態研究部教室、教育研究棟８Ｆ |
| 曜日・時刻 | 木曜日、午後５時～６時半まで |
| 期間・回数 | ５月～12月：計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席回数10回以上及び内容の理解度 |
| 連絡先・備考 | 複数人数のグループが望ましい。<br>内線：3379 |

# セ　ミ　ナ　ー　107

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 水上　浩明、久米　晃啓、卜部　匡司、塚原　智典 |
| 所属 | 遺伝子治療研究部 |
| テーマ | 遺伝子治療 |
| 学習目標 | 遺伝子治療をメインテーマとし、先端医学のテクノロジーの基礎と応用について学ぶ。 |
| 学習方法 | スライドを用いたレクチャーのあと、フリーディスカッションを行う。また、研究室の雰囲気を知るため実験を見学する。 |
| テキスト | 参考図書：<br>医学＆サイエンスシリーズ「遺伝子治療」（羊土社）<br>臨床遺伝子医学ガイダンス（南山堂）<br>造血幹細胞―基礎から遺伝子治療・再生治療へ―（中外医学社） |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 遺伝子治療研究部会議室 |
| 曜日・時刻 | 18：00～19：30　・但し、相談してスケジュールを決定する。 |
| 期間・回数 | １学期のみ10回（５月～７月） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | ２名以上５名以下<br>内線3480<br>e-mail:dgtcmm@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　108

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 花園　　豊 |
| 所属 | 再生医学研究部 |
| テーマ | 「時事医学」入門 |
| 学習目標 | 医学上の「新発見」や「新開発」といったニュース見聞の機会は少なくない。マスコミに出る医学情報、とくに再生医学関連ニュースを取り上げて、先端医学の現状を知り社会との接点を探る。<br>また、先端医学に関するマスコミ情報を客観的に捉える能力を養う。 |
| 学習方法 | 1．新聞記事の切り抜き（またはスキャン）とスクラップブック（またはPDFファイル）の作成。<br>2．原典（原著論文や学会抄録）にあたる。<br>3．レクチャーと自由討論。 |
| テキスト | 特に定めないが、適宜紹介する。 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 再生医学研究部 |
| 曜日・時刻 | 応相談 |
| 期間・回数 | 計15時間 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて認定 |
| 連絡先・備考 | 2名以上5名くらいまで。<br>連絡先：花園　0285－58－7451　または（内）3176<br>hanazono@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　109

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 高橋　将文 |
| 所属 | 炎症・免疫研究部 |
| テーマ | 炎症・免疫学入門 |
| 学習目標 | 様々な疾患の病態に炎症・免疫反応が関与している。この炎症・免疫反応の分子機序を理解するとともに、疾患との関わりを学習する。また、実際の実験を見学・参加することにより理解を深める。 |
| 学習方法 | 教科書・総説等の輪読と解説。<br>実験の見学および参加。 |
| テキスト | 相談の上で決める。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 炎症・免疫研究部（教育研究棟７階） |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | 相談の上、決める。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて認定する（原則８割以上）。 |
| 連絡先・備考 | 内線：2360<br>E-mail:inflammation@jichi.ac.jp |

# セ ミ ナ ー 110

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 川上　潔、佐藤　滋、矢嶋　浩、杉本　大樹、高橋　将文 |
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | 発生生物学の最前線 |
| 学習目標 | 新着雑誌から、発生、形態形成などの現象にかかわる重要な論文の骨子を教員が紹介し、最近の動向を学ぶ。 |
| 学習方法 | 新着論文の解説、討論。 |
| テキスト | 毎回、取り上げる論文のデータを主とした資料プリントを配布。 |
| 対象学年 | 全学年（高学年を主とする） |
| 場所 | 教育・研究棟７階　共同会議室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日・18：00から約１時間半。 |
| 期間・回数 | 毎月２回、通年22回 |
| 単位 | 20コマ　１単位×２、年２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | kkawakam@jichi.ac.jp<br>内線3361 |

# セ　ミ　ナ　ー　111

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 川上　潔 |
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | がんの生物学 |
| 学習目標 | がんの生物学を理解する。 |
| 学習方法 | 毎週決めた章を読んでおく。その内容についての討論をセミナー中に行い、理解を深める。<br>討論が主である。 |
| テキスト | 南江堂　がんの生物学（2008刊） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟２Ｆ　セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ、決める。 |
| 期間・回数 | 全15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | kkawakam@jichi.ac.jp<br>内線3361 |

# セ　ミ　ナ　ー　112

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 佐藤　滋 |
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | ヒトの進化史を理解しよう |
| 学習目標 | アメリカの大学で定評のある How Humans Evolved 第５版の訳本「ヒトはどのように進化してきたか」を使用し、ヒトの遺伝的・形態的特徴、さらに現代人の行動と進化との関わりについて理解を深める。 |
| 学習方法 | 毎回決めた章を各自読んでおく。重要な点を要約し、その内容についての討論を行う。 |
| テキスト | ヒトはどのように進化してきたか<br>ロバート・ボイド、ジョーン・Ｂ・シルク　著<br>松本晶子、小田　亮　監訳<br>出版社：ミネルヴァ書房（2011/7/10）<br>ISBN : 978-4623058983 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 教育・研究棟２階　セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 希望者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 全15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | ssato@jichi.ac.jp |

# セ　ミ　ナ　ー　113

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岩本　禎彦 |
| 所属 | 人類遺伝学研究部 |
| テーマ | 人類遺伝学セミナー |
| 学習目標 | 近年のゲノム解読計画によって、ほぼヒト全ゲノムの塩基配列の決定が終了した。しかし、これは解析のほんのスタートにすぎない。今後はその中にどのような暗号が隠されているのか、それを解くための文法はあるのかなど残された謎は多い。本セミナーでは、ゲノム解析の現状を知り、その情報を処理する方法を探る。 |
| 学習方法 | １．ゲノム解析に関する最新文献を抄読する。<br>２．インターネットを使って、ジーンバンクなどの遺伝子情報、ソフトウェアを活用する方法を修得する。 |
| テキスト | プリントを準備、配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 分子病態治療研究センター・人類遺伝学研究部 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定 |
| 期間・回数 | 各学期10回、計30回 |
| 単位 | １年間で２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 連絡先・備考 | ３人程度<br>内線3101 |

# セ　ミ　ナ　ー　114

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 力山　敏樹、清崎　浩一、宮倉　安幸 |
| 所属 | 総合医学第２ |
| テーマ | 地域における消化器癌検診の現状と問題点 |
| 学習目標 | 地域における胃癌・大腸癌の検診がどのように実施されており、その結果発見される胃癌・大腸癌の特徴は何か？検診の問題点等について学習する。 |
| 学習方法 | 自治医科大学さいたま医療センターにおいて手術された胃癌・大腸癌の手術症例の検討をもとに上記の目標を達成する。<br>・胃癌検診については、４年前から内視鏡検査が導入されている。従って、内視鏡による健診とＸ線による健診につき、それぞれの健診で発見された癌の特徴を検討する。<br>・検診で発見された胃癌・大腸癌の術前病期診断および切除標本の病理組織学的所見と遠隔成績を有症状にて発見された症例と比較して検討する。 |
| テキスト | 大腸癌・大腸ポリープ（図説消化器病シリーズ８）<br>よくわかる大腸癌のすべて（永井書店）他<br>胃癌リスク健診（ABC 健診）マニュアル（南山堂　2009年10月） |
| 対象学年 | ４～５学年 |
| 場所 | 自治医科大学さいたま医療センター４階カンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 毎週あるいは隔週、水、木または金曜日、午後４時～６時 |
| 期間・回数 | １回２時間～３時間　１／１～２週 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 試問およびレポートによる |
| 連絡先・備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　115

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 草鹿　元 |
| 所属 | 総合医学第２ |
| テーマ | 登山医学 |
| 学習目標 | 野外での緊急時に対する適切な対応・寒冷地での低体温症や凍傷・高所で起こる低酸素症・運動生理学的な知見に基づいた適切な登山処方など、医学的知識の発展・向上・普及を通じて登山活動の安全に貢献すること。 |
| 学習方法 | 登山医学の基礎については机上講習が主体（高所医学・低体温症・凍傷・水難・熱中症・気象・栄養水分バランス・旅行医学・国際感染症など）また室内で可能な、山岳ファーストエイド講習（低体温患者の復温や凍傷部位の解凍方法、熱射病患者の処置・雪崩埋没者の救出方法など）を行う。 |
| テキスト | 登山の医学ハンドブック第２版<br>High Altitude Medicine & Physiology Fifth edition |
| 対象学年 | ３年生以上 |
| 場所 | 自治医科大学さいたま医療センター会議室 |
| 曜日・時刻 | 水曜日（月１～２回程度）午後６時くらいから（参加者と相談） |
| 期間・回数 | １年間　10～15回程度 |
| 単位 | １～２単位 |
| 単位認定方法 | 事後課題のレポート提出、山岳ファーストエイドについては実技テスト |
| 連絡先・備考 | 連絡先：さいたま医療センター　048－647－2111　　内（5846）<br>担当教員・草鹿　元は国際認定山岳医（国際山岳連盟医療部会（UIAA Med Com）、国際山岳連盟協議会（ICAR）、国際登山医学会（ISMM）認定・DiMMJPN No.9）です。 |

編　　集　　教　務　委　員　会
編集責任　　教　務　委　員　長
編集担当　　学　事　課　教　務　係